

会 告 目 次

平成3年度役員選挙について	2
研究発表会開催通知	4
第75回 人工知能研究会	4
第49回 マルチメディア通信と分散処理研究会	6
第35回 ヒューマンインタフェース研究会	6
第38回 ソフトウェア基礎論研究会	} 合同
第28回 プログラミング言語研究会	
第8回 人文科学とコンピュータ研究会	9
第78回 ソフトウェア工学研究会	10
第82回 データベース・システム研究会	10
第79回 計算機アーキテクチャ研究会	11
第61回 記号処理研究会	12
第82回 自然言語処理研究会	12
第36回 数値解析研究会	13
第20回 アルゴリズム研究会	14
第50回 オペレーティング・システム研究会	14
第33回 情報システム研究会	15
第71回 コンピュータビジョン研究会	16
平成3年度研究会のお知らせ	18
研究発表会開催予定(1991年4月~1992年3月)	20
ソフトウェア基礎論研究会・プログラミング言語研究会統合のお知らせ	23
情報処理学会 第42回全国大会(平成3年前期)参加について	24
奨励賞候補の推薦について	25
「チュートリアル・セッション」開催について	26
第43回全国大会(平成3年後期)の開催について	24
第6回「コンピュータ通信ワークショップ(JWCC-6: Joint Workshop on Computer Communications)」の論文募集	28
「コンピュータ・システム・シンポジウム」の開催について	29
ISSMM—共有記憶型並列処理国際シンポジウム開催のお知らせ	31
DASFAA '91—第2回高度応用のためのデータベースシステムに関する国際シンポジウム	34
第1回マルチデータベースシステム相互運用に関する国際ワークショップ	39
IFIP TC5/WG 5.10 Working Conference on Modeling in Computer Graphics 開催について	41
支部だより	42
本会協賛等の行事案内	43
平成3年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について	43
論文誌, 欧文誌の購読のおすすめ	43
「情報処理ハンドブック」の頒布について	45
会 議 案 内	46
教 官 募 集	47
雑 報	47
役 員 名 簿	48

平成3年度 役員選挙について

本会定款第20条にもとづき、来る5月20日(月)開催の第33回通常総会をもって本会役員半数が退任します。平成3年度の役員選挙は、2月中旬に別途送付される投票用紙(往復はがき)により行いますので、正会員各位は下記の要領により、同投票用紙にてもれなく投票をお願いいたします。

投票用紙記載の候補者は、有権者の参考に供するために、本会理事会が推薦したものです。これらの候補者の中から選定される場合は、下記の候補者名簿をご参照のうえ投票ください。ただし、これらの候補者以外の会員(正会員に限る)を選定される場合は、それぞれの区分の空欄に氏名、所属をご記入ください。

記

1. 別送の投票用紙(返信はがき)の選定欄に○印をおつけください。
2. 会長ならびに副会長はそれぞれ1名の単記、理事は、業務担当では〔教育/研究〕、〔製造・販売(A)〕、〔製造・販売(B)〕、〔利用〕の各分野別に1名の単記、編集担当では〔教育/研究〕、〔分野不問〕の各分野別に2名以内の連記、監事は1名の単記とします。これをこえた場合には無効となりますので、ご注意ください。
3. 改選定数は、会長1名、副会長1名、理事8名、監事1名です。
4. 投票の締切は平成3年3月6日(水)の郵便消印があるものまで有効といたします。
5. 投票用紙(はがき)は料金受取人払ですから、切手を貼付する必要はありません。
6. 投票用紙記載の候補者は50音順です。
7. 1月18日現在で本年度会費未納者には投票用紙は送付いたしません。

平成3年度 役員改選候補者名簿

役職名	候補者氏名 (五十音順)	勤務先および役職名 (平成3年1月現在)	出身学校 卒業年次 (昭和)	略歴・専門分野等
会長	萩原 宏	龍谷大学理工学部教授	京大 25	平成2年3月京都大学を定年退官、4月より現職。元学会理事・関西支部長・副会長。計算機システムを専門としている。
副会長	小林 亮	日本電気専務取締役	京大 31	NECに入社後、超大型からパソコンまでの各種コンピュータの研究・開発に従事し現在に至る。元学会理事。
	三次 衛	ファコム・ハイタック代表取締役社長	東工大 28	富士通専務取締役・システム担当を経て現職。通産省、文化庁、経団連、電子協等の委員会で知的財産問題を研究している。
理	斎藤 信男	慶応義塾大学環境情報学部教授	東大 39	電総研、筑波大学、慶大理工学部を経て現職。元学会誌・論文誌編集委員・研究会主査及幹事。OS、ソフトウェア工学を主に研究中。
	土居 範久	慶応義塾大学理工学部教授	慶大 39	元プログラミングシンポジウム副幹事長・学会論文誌編集委員。OS、情報セキュリティ、オブジェクト指向計算を研究中。
	村上 国男	神奈川大学理学部教授	茨城大 39	ICOT 第一研究室長、NTT 知識処理研究部長を経て現職。元学会編集委員・研究会幹事。分散 AI について研究中。
事 (業務担当)	勅使河原可海	日本電気情報処理通信業システム事業部副技師長	名工大 40	東工大博士卒業後 NEC 入社。学会規格委員会 SC21 委員、元 WG1 主査。衛星データ通信ネットワークの開発、OSI 関連標準化を担当。
	西岡 郁夫	シャープ コンピュータ事業部長	阪大 41	システム研究所長を経て現職。通信学会論文査読委員、元学会関西支部評議員。CAD/CAMの研究・開発を経てパソコン事業担当。
	森 健一	東芝総合企画部次長	東大 37	東芝総研情報システム研究所長を経て現職。元学会論文誌編集委員。郵便番号読取区別機、日本語ワードプロセッサを研究・開発。
(製造・販売(B))	大野 旬郎	東芝情報システム取締役研究開発室長(旧日本ビジネスオートメーション)	東大 39	日本ユニバックを経て現職。COMPSAC 委員、元ソフトウェア工学研究会幹事。情報システムのモデリングを研究中。
	住谷 永夫	アイネス情報通信事業部長	茨城大 30	NTT 武蔵野通研において DIPS、データ通信本部にて遠隔地よりの情報処理システム、現職にて特別二種業者 VAN 構築に従事。
	反町 洋一	三菱総合研究所取締役 高等研究学院長	東教大 33	三菱原子力計算センターを経て現職。元学会理事。専門はオペレーションズ・リサーチ。

役職名	候補者氏名 (五十音順)	勤務先および役職名 (平成3年1月現在)	出身学校 卒業年次 (昭和)	略歴・専門分野等
理事 (業務担当)	鈴枝 進	鉄道情報システム中央システムセンター次長	都立大 42	昭42国鉄入社、民営分割後現職。「みどりの窓口」のマルスシステム等の大規模オンラインシステムの開発・運営に従事。
	田中善一郎	日経 BP 日経バイト編集長	阪大 43	日経エレクトロニクス編集、日経コミュニケーション編集を経て現職。コンピュータ/通信システム、LSI設計、符号理論の調査。
	鶴保 征城	NTT ソフトウェア研究所長	阪大 39	電子交換、データ通信システム用 OS の研究・開発を経て現職。ソフトウェア開発支援技術を研究中。元学会誌・論文誌編集委員。
理事 (教育/研究)	雨宮 真人	九州大学大学院総合理工学研究科教授	九大 42	NTT 通研を経て現職。元学会欧文誌編集委員・研究会幹事。並列処理アーキテクチャと人工知能について研究中。
	植村 俊亮	東京農工大学工学部教授	京大 39	電総研を経て現職。元学会理事・研究会幹事、論文査読委員、規格委員など。データベースシステムを研究中。
	松下 温	慶応義塾大学理工学部教授	慶大 38	沖電気工業を経て現職。元学会編集委員、研究会主査。コンピュータ・ネットワーク、分散処理、グループウェアを研究中。
	村岡 洋一	早稲田大学理工学部教授	早大 40	NTT 通研を経て現職。元学会論文誌編集委員。並列処理、マルチメディアデータベース等を研究中。
理事 (編集担当)	佐藤 繁	富士通研究所取締役	東大 33	富士通にて電子計算機の開発に25年間従事、以後研究所にて電子計算機の研究を担当。学会30周年記念国際会議プログラム委員。
	羽下雄之輔	沖電気工業研究開発本部総合システム研究所長	横浜国大 39	文字認識装置の開発を経て、現在新計算機システム並びに人工知能技術の研究開発担当。
	春名 公一	日立製作所マイクロエレクトロニクス機器開発研究所長	京大 38	日立中央研究所、システム開発研究所を経て現職。システム工学研究の後、ワークステーション、パソコンの研究管理、工学博士。
	古川 康一	新世代コンピュータ技術開発機構研究所研究担当次長	東大 40	電総研を経て現職。元学会誌編集委員。論理プログラミング、第五世代コンピュータ、人工知能、機械学習を研究中。
監事	山田 郁夫	三菱電機技術管理部長	慶大 36	三菱電機中央研究所、制御製作所(神戸)、コントロールソフトウェア(株)を経て現職。元学会国際担当理事、30周年国際会議運営委員。
	和田 英一	東京大学工学部教授	東大 30	64年東京大学助教授、77年教授、73年MIT, AP, 元学会理事(2回)、78年からSC2専門委員長、IFIP WG 2.1 委員。

(参 考)

平成3年度留任役員名簿

役職名	氏名	勤務先
副会長	石田 晴久	東大
理事	伊藤 貴康	東北大
理事	藤村 幸男	鉄道総研
理事	木村 元伸	NTT データ通信
理事	杉山 元伸	NTT データ通信
理事	春原 猛積	三菱
理事	田中 穂積	東工大
理事	名取 亮	筑波大
理事	西和彦	アスキー
理事	発田 弘	日電
理事	山本 晃司	日電
監事	安井 敏雄	日本IBM

退任役員名簿

役職名	氏名	勤務先
会長	三浦 武雄	日立
副会長	戸田 巖	NTT
理事	市川 照久	三菱
理事	上村 務	日本IBM
理事	上林 弥彦	京大
理事	竹井 大輔	鉄道情報システム
理事	千葉 常世	日立
理事	苗村 憲司	NTT
理事	益田 隆司	東大
理事	横井 俊夫	日本電子化辞書研
監事	渡部 和	日電

研究発表会開催通知

(平成3年2月15日～3月31日)

研究会	日	時	会場	備考
グラフィクスとCAD	2月22日(金)	10:30～17:00	富士通	前号参照
人工知能	3月6日(水) 3月7日(木)	10:00～17:00 10:00～17:20	ICOT	下記参照
マルチメディア通信と分散処理	3月7日(木)	10:00～16:00	機械振興会館	同上
ヒューマンインタフェース	3月7日(木) 3月8日(金)	10:00～17:15 9:00～16:45	北海学園大	同上
ソフトウェア基礎論 プログラミング言語} 合同	3月8日(金)	10:00～17:20	明大	同上
人文科学とコンピュータ	3月8日(金)	10:00～17:00	学情センター	同上
ソフトウェア工学	3月8日(金)	10:30～16:40	早大	同上
データベース・システム	3月11日(月)	9:45～17:00	機械振興会館	同上
計算機アーキテクチャ	3月11日(月)	10:00～16:00	日本IBM	同上
記号処理	3月11日(月)	10:30～17:00	N T T	同上
自然言語処理	3月15日(金)	10:00～16:30	京大会館	同上
数値解析	3月15日(月)	10:30～16:00	統数研	同上
アルゴリズム	3月15日(金)	13:00～17:00	機械振興会館	同上
オペレーティング・システム	3月15日(金) 3月16日(土)	13:00～17:45 9:00～11:45	名工大	同上
情報システム	3月19日(火)	10:00～18:30	東京工大	同上
コンピュータビジョン	3月28日(木)	13:00～16:00	機械振興会館	同上

◆ 第75回 人工知能研究会

(発表件数: 17件)

(主査: 石塚 満, 幹事: 原口 誠, 松原 仁, 吉田裕之)

日時 平成3年3月6日(水) 10:00～17:00
3月7日(木) 10:00～17:20

会場 新世代コンピュータ技術開発機構 (ICOT) アネックス会議室

(東京都港区三田 1-4-28 三田国際ビル・アネックス, JR (山手線): 田町下車, または地下鉄 (浅草線): 三田下車, 徒歩10分, 地下鉄 (三田線): 芝公園下車, 徒歩5分. Tel. 03 (3456) 3192 (前田))

議題

3月6日(水)

—10:00～12:00—

- (1) A Topological Model for Probabilistic Logic and Its Application to Inductive Inference

月本 洋 (東芝)

(概要) 古典論理を拡張して得られる確率論理の関数の関数解析的取扱いと其の帰納推論への応用について述べる。

- (2) 一般化論理プログラム (GLP) の部分計算による論理回路の変換ルールの合成法

馬淵浩司, 赤間 清, 青木由直 (北大)

〔概要〕 論理回路の変換ルールを GLP 論理に基づいて表現し合成する方法について述べる。

(3) フレーム問題に関する考察(3) —ヒューリスティックスとしての因果律—

松原 仁 (電総研), 橋田浩一 (ICOT)

〔概要〕 因果律がフレーム問題を擬似解決するためのヒューリスティックスであることを類推を例にとりて論じる。

—13:00~17:00—

特集：事例ベース推論と類推

(4) 招待講演：事例ベース推論の研究課題

小林重信 (東工大)

〔概要〕 事例ベース推論の研究課題として、事例の表現、特徴づけ、類似性、事例の修正・修復、事例ベースの検索・組織化などの問題を論じる。

(5) 事例ベースアプローチによる設計支援 —設計支援システム SUPPORT における事例の再利用—

仲谷善雄, 築山 誠, 福田豊生 (三菱電機)

〔概要〕 事例ベース型設計支援における類似事例の探索方法および一般的な事例の再利用方法を提案する。

(6) 電力系統事故時復旧支援における事例ベースの構築化と洗練化

奥田健三 (宇都宮大), 山崎勝弘 (立命館大)

〔概要〕 事故時復旧案を事例ベースに登録する場合の選定基準と事例の構築法および学習による洗練化について述べる。

(7) 事例ベース推論のオブジェクト指向アプローチとその故障診断への適用

木下茂行 (川崎製鉄)

〔概要〕 事例ベース推論による実用システムを開発する方法として、オブジェクト指向アプローチを提案する。

(8) 事例ベース推論を利用した情報検索ノウハウの蓄積と活用 —経済統計データベースへの適用

鍋田茂子 (CSK), 寺野隆雄 (筑波大)

〔概要〕 経済統計を対象とした検索支援システムに事例ベース推論を導入し、情報検索の効率化を試みた。

3月7日 (木)

—10:00~12:00—

特集：事例ベース推論と類推

(9) 事例の修正結果に基づく事例ベースの洗練化

前田 茂 (ICOT)

〔概要〕 事例ベース推論において事例の修正結果の情報をもとに事例ベースの構造、照合知識を洗練化する。

(10) コーパス解析に基づく事例ベースパーザ

島津秀雄, 高島洋典 (日電)

〔概要〕 収集したコーパスの解析に基づいたフレーズベースシステムの新しい構築方法 Courpus-Based Parsing を提案し、これに基づく知識獲得機構を作成したので報告する。

(11) 事例を用いた日本語解析 —「知恵の泉」のインターフェース部の構想—

井上秀行 (東芝)

〔概要〕 構文規則や意味辞書を用いることなく、事例に基づいて入力日本語文を解析する方法について述べる。

—13:00~17:20—

(12) 事例ベース形推論による観光経路決定支援システム

山崎勝弘 (立命館大), 奥田健三 (宇都宮大)

〔概要〕 複数観光地の経路を決定するための事例の表現、検索、比較・評価、および修正の方法について述べる。

(13) 類推の正当化問題に関する論理による分析と一弱正当化法

有馬 淳 (ICOT)

〔概要〕 正当化問題 (justification problem) を論理的観点から分析し、それに基づき関連性に関する一基準を与える。

(14) 高階一般化による類推

原尾政輝 (九工大)

〔概要〕 具体例や基本的問題に関する解法を高階抽象化によって一般化し、高階単一化手法を用いると、ある種の類推問題解決機構が実現可能なことを示す。

(15) Analogical models for logic programs—Semantics for analogical reasoning as a form of hypothetical reasoning

折原良平 (東芝)

〔概要〕 類推を仮説推論と見なすことにより、類推の意味論が, generalized stable model で与えられることを示す。

(16) 性質の保存に基づくモデル間の類似性の尺度について

高橋真吾 (東工大)

〔概要〕 モデル間の類似性を与える射としての F-morphism による性質の保存の違いに注目して、モデル間の類似性の尺度を構成する試みを行う。

(17) 法的類推機構の基礎

原口 誠 (東工大)

〔概要〕 類推解釈機構を持つ法的推論システム実現のために必要な理論的諸要素について、類似性の極大性と統制目的違反の観点から述べる。

◆ 第49回 マルチメディア通信と分散処理研究会

(発表件数：8件)

(主査：松下 温，幹事：水野忠則，山崎清明，若山博文)

日 時 平成3年3月7日(木) 10:00~16:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室

〔東京都港区芝公園 3-5-8，地下鉄：日比谷線神谷町，浅草線大門，三田線御成門下車，または JR：浜松町下車，バス：渋谷—東京タワー線東京タワー，渋谷—東京駅八重洲線虎ノ門5丁目下車。Tel. 03 (3434) 8211〕

議 題

—10:00~12:00—

(1) TCP/IP インタネットワークにおけるある障害の自動検出方法について 菅原俊治 (NTT)

〔概要〕 TCP/IP インタネットワークにおける典型的な障害の自動発見法をデータとともに紹介する。

(2) LAN におけるトータルネットワーク管理システムの一考察 鈴木 治 (常葉学園浜松大)

〔概要〕 LAN におけるトータルネットワーク管理システムを構築し、その評価と OSI ネットワーク管理との整合性を考察する。

(3) 形式記述法を用いた適合性試験システム 勝山光太郎，佐藤文明，水野忠則 (三菱電機)

〔概要〕 国際基準に準拠した形式記述言語 (SDL) に基づく適合性試験システムについて報告する。

—13:00~16:00—

(4) OSI トランザクション処理プロトコル実装システムの実現方式に関する一考察

岩倉伸行，松田栄之 (NTT データ)

〔概要〕 応用層構造 (ALS) に準拠した OSI のトランザクション処理プロトコルの実装方式に関して報告する。

(5) UNIX メールシステムと MHS の統合 内海正樹 (東芝)

〔概要〕 OSI メールシステムに UNIX メールシステムを組み込むことにより、統一的な利用者環境を実現した。

(6) メディア間の同期情報を含むマルチメディア文章 米田 健，市川敬史，屋代智之，松下 温 (慶大)

〔概要〕 メディア間の同期情報を含んだ、時間的に変化するマルチメディア文章を ODA の規格を拡張して構造化した。

(7) 分散システムのための選択的放送通信サービス 中村章人，滝沢 誠 (東京電機大)

〔概要〕 分散処理で必要となる放送通信の中で、各 PDU ごとに宛先集合の異なる場合のプロトコルについて論じる。

(8) ネットワーク型演習支援システムにおける教材サーバについて

福島 学 (富士ゼロックス)，浮貝雅裕，菅原研次 (千葉工大)

〔概要〕 演習支援システムにおいて、画像やテキスト等多様な教材情報を管理するサーバの基本構成について述べる。

◆ 第35回 ヒューマンインタフェース研究会

(発表件数：24件)

(主査：木村 泉，幹事：小橋史彦，角田博保，黒須正明)

日 時 平成3年3月7日(木) 10:00~17:15 *夜間自由討議 (於 NTT 札幌会館)

3月8日(金) 9:00~16:45

会 場 北海学園大学 工学部 2号館 35番教室

〔札幌市中央区南26条西 11-1-1，札幌駅より地下鉄：中島公園下車 (約5分)，徒歩約15分，または、市営バス (南56)：北海学園大下車 (約20分)。Tel. 011 (841) 1161〕

議 題

3月7日(木)

—10:00~12:00—

● 視覚的インタフェース

司会：来住伸子 (日本 IBM)

(1) MMS：メディア管理システム

谷 正之 (日立)

〔概要〕 MMS は UIMS に映像イベントを導入し、ユーザ操作と映像との同期，映像と計算機処理との同期を統

一的に実現。

(2) 図形概念形成過程の文脈依存性とその応用

尾田政臣 (ATR)

〔概要〕 図形概念形成過程の文脈依存性を心理実験により示し、その結果のヒューマンインタフェースへの適用を考察する。

(3) 小型航空機および自動車操縦時の人間の眼球運動について

山ノ井高洋, 高柳 浩 (北海学園大), 小川隆正 (ATR), 山崎敏正 (日電)

〔概要〕 小型航空機および自動車操縦時における効率的な眼の使い方を、初心者と熟練者の比較によって明らかにした。

(4) チュートリアル：インタラクション・デザインの実際と問題点

黒須正明, 高野正樹, 鹿志村香 (日立)

〔概要〕 ソフトウェア開発におけるインタフェース・デザインの新しい手法を紹介し、その問題点を指摘する。

—13:00~17:15—

●入力法と文書作成

司会：木村 泉 (東工大), 森川 治 (製科研)

(5) 定型文書作成支援システム

土田泰治, 辻順一郎 (三菱電機)

〔概要〕 定型文書の作成・蓄積・利用を容易に行えるように文書処理言語を用いた定型文書作成支援システムを構築した。

(6) 操作自動マクロ化機能

宮崎一哉, 坂下善彦 (三菱電機)

〔概要〕 WS 上の GUI を用いた統合的な操作環境のサービス機能の一つとして、操作自動マクロ化機能を実現した。

(7) 手書きヒューマンインタフェースの構築支援環境

荒井俊史, 正嶋 博 (日立)

〔概要〕 ストローク認識サーバと、ストローク処理を支援する UIMS により、手書き HI の構築支援環境を実現する。

(8) 連続打鍵列の打鍵時間に対する分析と考察

角田博保 (電通大), 柏川正充 (東工大)

〔概要〕 打鍵タイミングデータをもとに、連続 n 打鍵列の打鍵時間を分析し、打鍵時間予測のモデル化を試みる。

(9) QWERTY ローマ字打ちと SKY 配列の相互干渉

木村 泉 (東工大)

〔概要〕 表記 2 種の入力方式を練習してみると、いくつかのキーについて強い干渉が起こる。緩和策を提案する。

(10) 日本語ワードプロセッサのかな漢字変換における変換処理と精度についての考察

酒井貴子, 本宮志江, 下村秀樹, 並木美太郎, 中川正樹, 高橋延匡 (農工大)

〔概要〕 市販のワープロのかな漢字変換について変換処理の内容を推定し、変換精度との関係を考察する。

(11) ワープロの漢字辞書機能の優劣比較 (その 2)

大島章嘉 (日本能率協会)

〔概要〕 ワープロの辞書機能の良否を、望む文字がどれだけの短時間で出るかという指標で評価するものである (主要各社別)。

(12) 計算機マニュアルにおける表現の品質の定量的評価

高橋善文 (富士通)

〔概要〕 文書の分かりやすさのモデル評価式を見聞に基づいた指標と文書の表層データの統計処理とを利用して導出する。

●夜間自由討議 (*研究会終了後、会場を変えて行います)

会場：NTT 札幌会館 (札幌市中央区南 7 条西 1-12 Tel. 011 (511) 7171 (札幌駅より地下鉄 (東豊線)：豊水すすきの (6 番出口) 下車、徒歩 1 分))

特別講演として、コンピュータゲームのデザインをしておられる方に、いろいろなお話をさせていただき計画を立てています。また、会場に液晶プロジェクタを設置し、参加者の方々の研究紹介ビデオ (VHS) を自由に映写していただくことも考えております。ご希望の方は、当日会場にビデオテープをご持参ください。

3月8日 (金)

—9:00~11:45—

●ユーザインタフェースの将来像

司会：角田博保 (電通大), 小橋史彦 (NTT)

(13) 曖昧検索のためのファジィデータベース・システム

野村恭彦, 小高俊之, 横山光男, 松下 温 (慶大)

〔概要〕 検索における曖昧性について分類・モデル化を行い、曖昧検索に適応したデータ構造とインタフェースを提案する。

(14) 自然言語インタフェースのための未知概念の学習方法

荒木健治, 佐々木淳一, 桃内佳雄 (北海学園大)

〔概要〕 自然言語インタフェースのための未知概念の学習手法について特に入力文が名詞述語文である場合について述べる。

- (15) 思考促進の道具としての知的インタフェースについて 中村 孝 (大阪産業大)
〔概要〕 思考促進機能を持つ知的インタフェースとして構築を進めている問題解決支援システムについて述べる。
- (16) MMI の現状に関する一考察 内木哲也 (東洋大)
〔概要〕 MMI を分類する一視点を提示し、それに基づいて現状分析すると共に将来像について考察を加える。
- (17) UI 評価技法の検討 八木佐知子, 宮崎一哉, 坂下善彦 (三菱電機)
〔概要〕 状態遷移図の拡張であるステートチャートを利用し、UI のふるまいの評価を行う評価技法を検討している。

—13:00~16:45—

- 協調支援インタフェース(1) 司会: 黒須正明 (日立)
 - (18) 対話モデルに基づく非同期型研究発表環境の提案 山本吉伸 (慶大)
〔概要〕 研究者間には非明示的な協調関係が存在する。我々は研究発表の相互対話性に着目した協調研究環境を提案する。
 - (19) マルチエージェントに基づくグループウェア Michele の提案 中内 靖 (慶大)
〔概要〕 マルチエージェントに基づくグループウェアを提案し、その記述言語・実装・応用について説明する。
 - (20) グループ内会話モデルに基づいたメールシステム 市村 哲, 松浦宣彦, 岡田謙一, 松下 温 (慶大)
〔概要〕 オブジェクト指向モデルをグループ内通信に適用し、多様な会話モデルに動的に対応するメールシステムを提案する。
- 協調支援インタフェース(2) 司会: 安西祐一郎 (慶大)
 - (21) グループワークによる複雑な対象の理解支援について 吉澤純一, 武藤昭一 (東京電力), 植田孝夫, 西田正吾 (三菱電機)
〔概要〕 電力システムを例に、複雑な対象をグループワークによって理解するために必要なコンピュータ支援環境を述べる。
 - (22) 歩調をとった協調: 電子輪講 神田陽治 (富士通)
〔概要〕 CSCW における新しい分野の開拓を目的に、共通の資料を皆で読み理解する輪講作業の電子化を考察する。
 - (23) 知識獲得のためのグループウェア GRAPE 上田晴康 (富士通)
〔概要〕 分類選択型問題に必要な知識をグループから獲得することを支援するシステム GRAPE を紹介する。
 - (24) 緩い協調: 協調情報フィルタリングシステム 渡部 勇 (富士通)
〔概要〕 目的を共有せず知識のみを共有する「緩い協調」について考察し、協調情報フィルタリングシステムを紹介する。

- ◆ 第 38 回 ソフトウェア基礎論研究会 } 合同
 - ◆ 第 28 回 プログラミング言語研究会 } (発表件数: 10件)
- SF (主査: 佐藤雅彦, 幹事: 小野 諭, 萩谷昌己, 堀内謙二)
PL (主査: 筑 捷彦, 幹事: 上田和紀, 徳田雄洋, 戸村 哲)

日 時 平成 3 年 3 月 8 日 (金) 10:00~17:20
 会 場 明治大学 (生田校舎) 理工学部 6 号館 6517 号室
 (川崎市多摩区東三田 1-1-1, 小田急線: 生田下車, 徒歩 10 分, または向ヶ丘遊園 下車, バス: 明大正門前行終点. Tel. 044 (911) 8181)

議 題

—10:00~12:20—

- (1) A fully abstract model for communicating processes with respect to the weak linear operational semantics 堀田英一 (NTT)
〔概要〕 並行プロセスのためのある言語に対して、操作的な弱線型意味モデルに対する完全抽象合成的モデルを提案。
- (2) An Operational Semantics for Meta and Refelctive GHC 沈 涵, 田中二郎 (富士通)
〔概要〕 Meta and Reflective GHC に対して, formal representation scheme を定義し, 操作的意味論を提案

する。

(3) マルチメディアを対象としたオブジェクト指向言語「紋様」

小泉 忍, 小林り恵, 山野紘一 (日立)

〔概要〕 図形, 画像, 音声等を対象とし制約機能とリンク機能とを組み込んだオブジェクト指向言語と処理方式について,

(4) オブジェクト指向言語 Koola におけるクラス定義

渡守武和記 (松下電器)

〔概要〕 Koola における, C 言語との互換性を考慮した 3 種類のクラス定義とその機能について述べる。

特集: 関数型プログラミング

—13:30~17:20—

(5) Linear Logic and Linear Lambda-terms

広川佐千男 (九大)

〔概要〕 Curry-Howard の対応により Linear Logic の証明図は Linear Lambda-term で表される。ラムダ項の型付けを詳細に調べることで, Linear Logic の性質が分かる。

(6) 近似正規形に基づく項書換え系の unfold/fold 変換

田中義憲, 直井 徹, 稲垣康善 (名大)

〔概要〕 項書換え系における unfold/fold 変換の正当性の十分条件を近似正規形に基づいて与える。

(7) 帰納的定義付き型理論について

萩谷昌己 (京大)

〔概要〕 帰納的定義の付いた型理論における簡約, 型推論, 項 (証明) 探索, 単一化などについて述べる。

(8) 関数型言語を用いたパターン駆動に基づくシステム実現手法 —並列関数型言語処理系の記述と実現—

中山 仁 (九工大), 中村 浩, 荒木啓二郎 (九大)

〔概要〕 簡単な並列関数型言語処理系の実現を通して, システム開発への関数型言語の適用手法を検討する。

(9) 並列リダクションにおける引数評価時の決定戦略

干場美佳子 (日本 IBM)

〔概要〕 並列リダクションの引数評価時を決定するための書き換え規則の解析方法と決定戦略の提案, 実験結果の報告。

(10) 並列分散 TRS シミュレータの実現方法について

山本晋一郎, 直井 徹, 坂部俊樹, 稲垣康善 (名大)

〔概要〕 並列分散 TRS シミュレータの実現方法について, 参照の局所性と GC に焦点をあてて報告する。

* 今回の研究会は日本ソフトウェア科学会 (関数型プログラミング研究会) との共催で開催されます。

◆ 第 8 回 人文科学とコンピュータ研究会

(発表件数: 6 件)

(主査: 杉田繁治, 幹事: 小沢一雅, 及川昭文, 洪 政国)

日 時 平成 3 年 3 月 8 日 (金) 10:00~17:00

会 場 学術情報センター 別館 会議室

(東京都文京区大塚 3-29-1, 地下鉄: 丸ノ内線茗荷谷下車, 徒歩 5 分. Tel. 03 (3942) 2351)

議 題

—10:00~12:00—

(1) 美術館所蔵作品のデータベース化

福森大二郎 (大日本印刷)

〔概要〕 美術館所蔵の美術作品の画像, テキストデータを蓄積検索できるデータベースを作成した。その経緯概要を紹介する。

(2) レーザディスクを使ったマルチメディア・ソフトの現状

萩野正昭 (パイオニアLDC)

〔概要〕 映像出版を目指し, 1990 年 2 月から販売を開始したソフト群, 主として「ループル美術館」, 「文京文学館」について解説する。

(3) ハイパーメディアによる人文科学資料総合データベースシステムの構築について

武田亘明 (札幌ソフトウェア専門学校)

〔概要〕 ハイパーメディアにより文字画像音声映像情報を一元管理する人文科学資料総合 DB システム構築について提案する。

—14:00~16:00—

(4) 日本古典文学作品本文データベースの形成とデータ記述文法

安永尚志 (国文研)

〔概要〕 岩波書店出版日本古典文学大系全百巻の全文データベースを作成している。その状況とデータ入力方法についてのべる。

(5) 文書データベースの設計と構築

桶谷猪久夫 (帝国女子短大)

〔概要〕 文書データベースの枠組みの検討からその構造と機能，特に索引機能について報告する。

(6) 学術情報センターの目録所在情報システム —システムの観点から— 宮澤 彰 (学情センター)

〔概要〕 学情センターの目録所在情報システムについて，データベース作成システムとしての特徴を紹介し，問題点を考察する。

—16:00~17:00—

見 学：学術情報センター コンピュータ施設

◆ 第78回 ソフトウェア工学研究会

(発表件数：7件)

(主査：原田賢一，幹事：宇都宮公訓，大槻 繁，大蔭和仁)

日 時 平成3年3月8日(金) 10:30~16:40

会 場 早稲田大学 理工学部 51号館 3階 第2会議室

(東京都新宿区大久保 3-4-1, JR (山手線), 西武新宿線, 地下鉄: 東西線いずれも高田馬場下車, 徒歩 15分.
Tel. 03 (3203) 4141)

議 題

—10:30~11:50—

(1) LOTOS によるソフトウェアプロセスの形式的記述法

金子 剛, 川瀬 智, 坂本正毅, 佐伯元司 (東工大)

〔概要〕 ソフトウェア開発過程を LOTOS で記述するためのモデルを提案し, 実際に記述した例を示す。

(2) 対話形式からのインタフェース記述

松永賢二, 松井陽子, 橋本 武, 山本喜一 (慶大)

〔概要〕 対話形式から視覚的インタフェースと対話記述を生成するツールを設計・実現し, 評価する。

—13:00~16:40—

(3) 視覚的プログラミング記述モデル

加登基二, 西村幸治, 平川正人, 田中 稔, 市川忠男 (広大)

〔概要〕 視覚的プログラミングシステムを分析し, 視覚システムを統一的に表現するモデルおよび言語を提案する。

(4) 代数的言語による関数型言語のコンパイラの作成

上田英邦, 東野輝夫, 谷口健一 (阪大)

〔概要〕 関数方言語のコンパイラを既存の手続き型言語Cと代数的言語 ASL の両方で作成し, 代数的手法によるプログラム開発の有用性について調べる。

(5) 関数型プログラムのグラフ還元 —サイクル構造の扱いを中心に—

杉藤芳雄 (電総研)

〔概要〕 関数型プログラムをグラフ還元で実行する際の鍵となる共有構造の特殊形態であるサイクル構造に関する検討。

(6) ソフトウェア・プロセスによるシステム設計・教育・訓練の試行および評価

望月純夫, 山内 顕 (三菱スペースソフトウェア), 片山卓也 (東工大)

〔概要〕 ソフトウェア・プロセスを利用した設計教育・訓練用ツールを試作し, 実習教育に適用して, その評価を得た。

(7) テストコストの減少率に注目したレビュー評価尺度の提案と実験的評価

楠本真二, 松本健一, 菊野 亨, 鳥居宏治 (阪大)

〔概要〕 テストコストの減少率に注目した新しいレビュー評価尺度の提案とその評価実験について述べる。

* 今回の研究会は電子情報通信学会 (ソフトウェアサイエンス研究会) との共催です。

◆ 第82回 データベース・システム研究会

(発表件数：9件)

(主査：牧之内顕文，幹事：北川博之，佐藤和洋，田中克己)

日 時 平成3年3月11日(月) 9:45~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2号室 (所在地は前記参照)

議 題

—9:45~11:45—

(1) 資源共有型マルチプロセッサにおけるデータベース処理の動的負荷配分法

平野泰宏, 佐藤哲司, 井上 潮 (NTT)

- 〔概要〕 データベースを並列処理する際の負荷配分コストを削減する動的な配分量決定法を提案する。
- (2) 階層型トランザクションの解除不能デッドロック 滝沢 誠, 兵頭章子 (電機大)
- 〔概要〕 階層型トランザクションのデッドロックを解決するために補償演算を実行すると解除不能なデッドロックが生じることを示し, この解決方法を論じる。
- (3) ハードウェアログ管理による並行処理制御・回復処理の高速化 高倉弘喜 (九大), 上林弥彦 (京大)
- 〔概要〕 トランザクションシステムでのログ管理をハードウェア制御により高速に行う方式について検討する。
- 12: 45~17: 00—
- (4) 知覚に基づく類似図形パターン検索
新田祐介, 曾我真人, 今中 武, 豊田順一 (阪大), 柳田益造 (通信総研)
- 〔概要〕 図形パターンを対象とした画像データベースにおいて人間の知覚に基づいた検索を行うための手法を提案する。
- (5) リンク指向 DBMS G-BASE におけるリンク機能の拡張とその応用 平岡昭夫 (リコー)
- 〔概要〕 レコード間の関連を表現するリンク機能を属性情報を持てるように拡張した。応用例と共に拡張機能を紹介する。
- (6) 拡張可能 DBMS: COMMON の格納構造と基本演算について 宝珍輝尚 (NTT)
- 〔概要〕 多種の意味的データモデル実現をめざす拡張可能 DBMS: COMMON の格納構造と基本演算について述べる。
- (7) オブジェクト指向データベースシステムにおけるスキーマ変更支援
吉高淳夫, 平川正人, 田中 稔, 市川忠男 (広大)
- 〔概要〕 オブジェクト指向データベースシステムにおけるスキーマ変更とそれに伴う支援について発表する。
- (8) 木構造複合オブジェクトの形式的モデル: SCORE
姜 世杰, 大保信夫, 山口和紀, 北川博之, 鈴木 功 (筑波大)
- 〔概要〕 文脈自由文法に基づく木構造複合オブジェクトの形式的モデル SCORE およびその代数的データ操作言語について述べる。
- (9) 深い入れ子代数による非正規型関係のクラス分け
北川博之 (筑波大), 國井利泰 (東大), 大保信夫 (筑波大)
- 〔概要〕 内部構造を直接操作可能な深い入れ子代数 (Deeply Nested Algebra) に基づく, 非正規型関係の分類について論ずる。

◆ 第79回 計算機アーキテクチャ研究会

(発表件数: 7件)

(主査: 富田真治, 幹事: 後藤厚宏, 村上和彰, 横田 実)

日 時 平成3年3月11日(月) 10:00~16:00

会 場 日本アイ・ビー・エム 東京基礎研究所

〔東京都千代田区三番町 5-19, 地下鉄: 半蔵門線半蔵門下車, 5番出口より徒歩5分, JR: 市ヶ谷下車, 徒歩10分, 英国大使館通り, ダイヤモンドホテルと霞友会館の間. Tel. 03 (3288) 8221〕

議 題

—10: 00~12: 00—

- (1) OHMEGA: 数値計算用スーパスカラマイクロプロセッサのアーキテクチャ 中島雅逸 (松下電気)
- 〔概要〕 数値計算用に開発した 64 bit スーパスカラマイクロプロセッサのアーキテクチャ技術について述べる。
- (2) バイプライン計算機における分岐仮実行アーキテクチャ
丸島敏一, 西 直樹 (日電), 大沢謙二 (NSIS), 中崎良成 (日電)
- 〔概要〕 簡単な制御理論の下で分岐命令の仮実行を行うバイプラインアーキテクチャを提案する。
- (3) ハイパースカラ・プロセッサ・アーキテクチャ —VLIW プログラムを自己形成可能なスーパスカラ方式—
村上和彰 (九大)
- 〔概要〕 スーパスカラ方式, VLIW 方式およびベクトル方式の長所を活用した新しいアーキテクチャを提案する。

—13: 00~16: 00—

- (4) 並列オブジェクト指向トータルアーキテクチャ A-NET の要素プロセッサ

鈴木 充, 吉永 努, 馬場敬信 (宇都宮大)

〔概要〕 メッセージ送信学信等の高機能命令を実装した要素プロセッサのハードウェア構成について述べる。

(5) PIE 64 のネットワーク・インタフェース・プロセッサ LSI の詳細

清水 剛, 小池汎平, 田中英彦 (東大)

〔概要〕 並列推論マシン PIE 64 の通信機構の最終仕様と実際に設計したハードウェア, 詳細設計に基づく性能予測結果を示す。

(6) TRON 仕様 32 ビットマイクロプロセッサ 10400 のマイクロシミュレータの実現方法

田積 誠 (松下電気)

〔概要〕 マイクロプログラム開発用シミュレータの効率的な記述方法を考察し, 32 ビットプロセッサ開発に適用して評価した。

(7) 統合型並列化コンパイラ・システム —ループ・リストラクチャリング—

音成 幹, 村上和彰, 富田眞治 (九大)

〔概要〕 逐次型ループを並列型ループに再構成するために用いる依存解析法について述べる。

◆ 第 61 回 記号処理研究会

(発表件数: 7 件)

(主査: 竹内郁雄, 幹事: 相場 亮, 小谷善行, 多田好克)

日 時 平成 3 年 3 月 11 日 (月) 10:30~17:00

会 場 NTT 武蔵野研究開発センター 6 号館 6-202 B

〔武蔵野市緑町 3-9-11, JR (中央線): 三鷹 (北口) 下車, 関東バス (電気通信研究所前行): 終点下車, または (北裏行): 武蔵野市役所前下車, 徒歩 5 分. Tel. 0422 (59) 3083 (竹内)〕

議 題

—10:30~12:00—

(1) 記憶構成方式 MOLDS における実時間ガーベッジコレクション 前川博俊, 實藤隆則 (ソニー)

〔概要〕 我々が提案しているリストデータのための記憶構成・管理方式における実時間 GC とその評価法について述べる。

(2) YY-server における入力機構について

田中啓介, 古坂孝史, 井田昌之 (青学大)

〔概要〕 Common Lisp 用 Window toolkit YY の日本語フロントエンド, 入力応答機構, および関連するプロセス間通信機構について論じる。

—13:00~17:00—

(3) Portable Mapping of Common ESP to Conventional Architectures

佐藤良治, 高橋文男, 実近憲明 (AI 言語研)

〔概要〕 CESP の言語処理系は, 高い移植性を持つ。同時に高い性能を達成した。これらを実現した手法について述べる。

(4) 制約による Prolog データベースの拡張

碓崎賢一 (九工大)

〔概要〕 制約を用い, 問合せ機能と性能を向上させた Prolog データベース機構について述べる。

(5) 並列環境下における Continuation

佐藤孝治 (慶大)

〔概要〕 future と process continuation の相互作用によって生じる問題点を示し, それらに対する解決方法を提案する。

(6) マルチプロセッサにおける Lisp コンパイラ

山内雅彦 (慶大)

〔概要〕 future 評価時の continuation に関してプロファイラを用いた動的最適化の方法を提案する。

(7) マルチプロセッサ計算機における mutilisp の実現

岩崎英哉 (東大)

〔概要〕 陽な並列処理機能を持つ Lisp 方言 mutilisp を 2CPU の UNIX マシン上に試作したので, その実現方法・性能の計測データなどについて述べる。

◆ 第 82 回 自然言語処理研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 野村浩郷, 幹事: 田中裕一, 徳永健伸, 内藤昭三)

日 時 平成 3 年 3 月 15 日 (金) 10:00~16:30

会場 京大会館 1階 102号室

〔京都市左京区吉田河原町 15-9, JR: 京都(烏丸口・北口)下車, 市バス(A2乗場): 206系統(東山通り経由), 東一条下車, 徒歩5分, または市バス(205番, 特17番, 4番, 14番): 荒神口下車, 徒歩7分.
Tel. 075 (751) 8311〕

議題

—10:00~12:00—

- (1) 統語構造と文レベル 佐野 洋 (ICOT)
〔概要〕 文レベルの扱いについて, これまでの JPSG における議論を総括し, 統語構造との関係について報告する。
- (2) チャートパーズング法によるべた書き文の直接解析 井上準一郎, 二口邦夫, 寺下陽一 (金沢工大)
〔概要〕 チャートパーズング法を改良し, 単語抽出, 構文解析, 意味解析を同時並行的に処理する手法を述べる。
- (3) 住所文字列に対する文字認識後処理方法の検討 磯山秀幸 (NTTデータ)
〔概要〕 住所文字列の文字認識結果に対し, 対象分野特有の知識を用いて知識処理をおこない, 読みとり精度を向上させる。
- (4) 効率的表現を介した解釈と生成 堂坂浩二 (ATR)
〔概要〕 文脈に応じて異なる情報内容を運ぶ効率的表現を介して, 特に断片文の解釈と生成をおこなうための枠組を示す。

—13:00~16:30—

- (5) 用例主導型機械翻訳 隈田英一郎, 飯田 仁 (ATR)
〔概要〕 用例主導型機械翻訳を提案し, 特に, 日本語の「の」の英語への翻訳に適用した実験結果を報告する。
- (6) Delexical-Verb と動作名詞の組の日本語翻訳について 田中英輝, 相沢輝昭 (NHK)
〔概要〕 give, advice などの基本動詞と動作名詞の組を日本語へ翻訳する手法について述べる。
- (7) 文章の機能的構造からの接続表現生成 小谷 亮, 今村 誠, 近藤省造 (三菱電機)
〔概要〕 文章の機能的構造から, 文の順序・接続詞・重文化に関する可能性を考慮して接続表現を生成する方法を示す。
- (8) 対話参加者の持つプランゴール構造の差異を考慮した対話制御について 今村 誠, 小谷 亮, 近藤省造 (三菱電機)
〔概要〕 対話参加者同志の持つ知識やプランゴール構造の食違いが対話制御や生成文の内容に与える影響について検討した。
- (9) 日英機械翻訳における共起表現の扱い 鈴木克志 (三菱電機), 太細 孝 (コンピュータ教育開発センタ)
〔概要〕 日英機械翻訳向けに共起表現を分類し, 格構造や共起表現が同一の枠組で記述可能な拡張格構造記述形式を得た。
- (10) 言語の構造単位を保持した文書執筆支援システム 野村直之, 村木一至 (日電)
〔概要〕 執筆者が『カーソル移動』等の雑思考から免れて文書内容そのものの思考に専念できるようにすることを狙って言語の構造を保持した特許ワープロを設計し, 基本機能の評価を行った。
- (11) アスペクトをもとにした文脈解析 吉川耕平, 舟渡信彦 (シャープ)
〔概要〕 アスペクトをもとにした一連の動作表現文の文脈解析の手法と, その意味表現方法について述べる。

◆ 第36回 数値解析研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 浜田穂積, 幹事: 関口智嗣, 土谷 隆, 吉原郁夫)

日時 平成3年3月15日(金) 10:30~16:00

会場 統計数理研究所 3階 セミナー室

〔東京都港区南麻布 4-6-7, 地下鉄(日比谷線): 広尾下車, 徒歩7分(都立中央図書館南側)。

Tel. 03 (3446) 1501〕

議題

—10:30~12:00—

- (1) 数列加速法について 杉原正顕 (一橋大)

〔概要〕 J. P. Delahaye の Sequence Transformations (Springer, 1988) の内容を紹介する。

(2) 量子可解模型に現れる非線形方程式の数値計算 常次宏一 (東大)

〔概要〕 量子可解模型の相関関数は非線形連立方程式に帰着される。ハバート模型の場合の数値計算について報告する。

—13:30~16:00—

(3) 優先順位を考慮した大規模一般化割当問題のための近似解法 錦織昭峰 (広島県立大)

〔概要〕 目的関数の係数値の決定が困難な割当問題において、所与の優先順位に従って割当を行うための解法を提案する。

(4) 頭部・耳介による干渉を考慮した音響伝達関数の計算 田口 東, 中村 学 (山梨大)

〔概要〕 人間の頭部をモデル化し、入射する音の音圧を境界要素法によって計算して耳介の形状等の影響を考察する。

(5) fill-in 付き (M) ICCG 法のベクトル計算機上の性能について 藤野清次 (計算流体力学研), 竹内敏己 (花王), 横川三津夫 (原子力研)

〔概要〕 収束性, ベクトル長そしてメモリ衝突などを考慮したときの fill-in 付き (M) ICCG 法の性能比較と利用指針を与える。

◆ 第20回 アルゴリズム研究会

(発表件数: 5件)

(主査: 西関隆夫, 幹事: 浅野孝夫, 岡本栄司, 安浦寛人)

日 時 平成3年3月15日 (金) 13:00~17:00

会 場 機械振興会館 地下3階 2室 (所在地は前記参照)

議 題

(1) Dynamic Programming on Intervals 浅野孝夫 (上智大)

〔概要〕 区間の集合における動的計画法を効率的に実行するアルゴリズムを述べる。これを用いるとグラフの最適系列化問題, 区間グラフの最小重み支配点集合などが $O(n \log n)$ でもとまることになる。

(2) Algorithms for Minimum Range Cut and Minimum Range Spanning Tree with a Specified Target 岩野和生 (日本IBM), 加藤直樹 (神戸商科大)

〔概要〕 重み付き無向グラフにおいて, カット (大域木) に含まれる枝の中で最大の重みと最小の重みの差を最小にするカット (大域木) を求める高速の算法を提案する。

(3) グラフを f 辺彩色する近似アルゴリズム 中野眞一, 藤井秀彦, 西関隆夫 (東北大)

〔概要〕 グラフを高々 $\Delta(G)+P$ 色で f 彩色する $O(E\sqrt{E \log E})$ の近似アルゴリズムを与える。

(4) 近傍探索法の最適値推定法 —巡回セールスマン問題を対象として— 中野秀男 (阪大)

〔概要〕 離散最適化問題に用いられる近傍探索法の最適値に関する推定を, 計算の途中で得られるデータから確率的に推定する方法について対象とする問題を巡回セールスマン問題として考察する。

(5) 多項式サイズの二分決定グラフで表現可能な論理関数のクラス 石浦菜岐佐, 矢島脩三 (京大)

〔概要〕 ノード数が入力変数の多項式で押えられる二分決定グラフで表現できる論理関数の性質について議論する。

◆ 第50回 オペレーティング・システム研究会

(発表件数: 12件)

(主査: 吉澤康文, 幹事: 川島幸之助, 清水謙多郎)

日 時 平成3年3月15日 (金) 13:00~17:45

3月16日 (土) 9:00~11:45

会 場 名古屋工業大学 計測分析センタ

〔名古屋市昭和区御器所町, 名古屋駅より JR (中央線): 鶴舞 (名大病院口) 下車 (8分), 徒歩5分, または地下鉄: 鶴舞 (4番出口) 下車 (10分), 徒歩5分. Tel. 052 (732) 2111〕

議 題 特集: システム性能評価

3月15日 (金)

(1) 拡張記憶を利用した仮想記憶制御方式ならびに性能評価 片田 久, 細内昌明, 吉澤康文 (日立)

〔概要〕 拡張記憶をページング、スワッピング用装置として利用する仮想記憶制御方式と、その適用効果について報告する。

(2) TPC モデルによる OLTP システムの性能評価

小川直樹, 山永康昌, 野地 保, 大上貴英, 松澤智子 (三菱電機)

〔概要〕 TPC モデルにより, OLTP システムの性能を実機ベンチマーク, シミュレーションの両面から評価した。

(3) DIROS における性能見積り手法

谷口秀夫, 箱守 聡 (NTTデータ)

〔概要〕 機能モジュール毎に部品化し, その組合せにより, AP/OS 分散時の性能を見積り手法について述べる。

(4) 感度解析手法 (IPA 法) を用いた分散環境評価方式

矢野隆則 (リコー)

〔概要〕 OA 機器等の分散環境を感度解析手法 (IPA 法) を利用して評価解析する方法について述べる。

(5) 明示化キャッシュメモリの性能評価

佐藤正樹, 有田隆也, 曾和将容 (名工大)

〔概要〕 プログラムによってキャッシュメモリの操作を行うキャッシュシステムの性能評価を行う。

(6) UNIX システムコールの性能評価

中村克巳, 野地 保 (三菱電機)

〔概要〕 UNIX の各種バージョンで, fork 等, 幾つかのシステムコールの実行時間等を測定し, そのインプリメントを考察した。

(7) 研究総説: 並列コンピュータと OS

曾和将容 (名工大)

〔概要〕 データ, コントロールフロー計算機の研究から明確になった計算機の基本概念と, OS の基本概念について述べる。

3月16日 (土)

(8) PN スーパースカラプロセッサの性能評価

有田隆也, 伊藤広明, 曾和将容 (名工大)

〔概要〕 細粒度並列性を抽出可能な PN プロセッサについてシミュレーションにより性能評価を行う。

(9) ネットワークサービスシステムのレスポンス評価

小松俊雄, 野瀬純郎 (NTT)

〔概要〕 ネットワークサービスシステムのレスポンスタイムをシミュレーションにより評価した。

(10) ハイブリッド・モニタ手法を用いたシステム動作の測定・解析

堀川 隆 (日電)

〔概要〕 低オーバーヘッドで実働システム動作を測定し, プロセス実行状況やディスク・アクセス特性等を解析した。

(11) マルチプロセッサシステムのための性能評価ツール MUSES

鴨川 郷, 秦泉寺浩史, 山本 幹, 岡田博美, 中西 暉, 手塚慶一 (阪大)

〔概要〕 マルチプロセッサシステムに対し, ハードウェアとソフトウェアの影響を総合的に評価できる MUSES を開発する。

(12) 大型計算機システム OS IV 性能管理ツールの統合

住田宏巳, 村瀬真一郎 (富士通),

野口 守 (理研), 金澤正憲 (京大), 三科 淳 (高エネルギー研), 飯田記子 (学情センタ)

〔概要〕 性能作業モデルの考え方と, 性能管理ツールの連携方式について述べる。

*3月15日 (金) の研究会終了後, 懇親会を予定しております。

◆ 第33回 情報システム研究会

(発表件数: 11 件)

(主査: 伊吹公夫, 幹事: 北風晴司, 鷹野 澄, 西原良一)

日 時 平成3年3月19日 (火) 10:00~18:30

会 場 東京工科大学 研究棟A-0404

〔八王子市片倉町 1404-1, JR (中央線): 八王子 (北口) 下車, バス (橋本行): 御殿峠下車 (約20分), 徒歩3分, または京王線: 京王八王子 (北口) 下車, バス (橋本行): 御殿峠下車 (約20分), 徒歩3分. Tel. 0426 (37) 2111〕

議 題 第1回 情報システム若手の会

今回は初めての試みとして, 若手のための研究発表大会と将来の情報システムを語る会を企画しました。通常の研究会と同様に参加者の年齢制限はありません。どなたでも参加は自由ですが, 特に情報システムの分析, 設計, 構築, 運用ならびに関連した研究, 開発などに携わる若手の方々 (大学院生, 若手社員, 若手教育者など) の多数のご参加をお願いします。なお, 今後毎年1回はこのような会を開く予定です。

●若手のための研究発表大会

—10:00~12:00—

(1) ライン中心型開発における部品払出システムの開発

松本俊之(慶大), 徳田晋一(イーグル工業), 金沢 孝(慶大)

〔概要〕 実際の企業でシステムをパソコンで逐次開発しながら, 現場を中心とした生産管理の改善活動を行った。

(2) 組立作業トレーニング・システムの開発

徳田晋一(イーグル工業), 松本俊之, 金沢 孝(慶大)

〔概要〕 生産立ち上り時の作業効率を向上させる為の訓練システムの開発と, その有効性の検証を行った。

(3) 拡張可能な端末エミュレータを用いたアプリケーション開発技法

土屋隆司(鉄道総研)

〔概要〕 拡張可能な端末エミュレータを用いた, ホスト・端末機能分散型アプリケーションの効率的実装法について発表する。

(4) 組込み領域への CASE ツールの適用

岩淵洋一(キャノン)

〔概要〕 機器組込みソフトウェアの開発に CASE ツールを利用する際の課題について述べる。

(5) CIM 構築に於けるシステム化事例

田中隆介(東芝)

〔概要〕 システム製品をモデルとした CIM 構築の実験経験を踏まえて, 情報システム化のプロセスにつき具体的に論じる。

(6) システム設計言語と利用者・設計者の意識調査

重野美紀(東京工科大)

〔概要〕 情報システム階層構成に必要な設計言語利用例での利用・設計双方の意識調査結果を比較報告する。

—13:00~14:00—

(7) 情報システム文書化のための3次元立体視技術

橋本一郎, 山本毅雄(情報大)

〔概要〕 情報システム分析・設計段階での文書化に3次元立体視を用いるための基礎技術を検討し, モデルシステムを試作。

(8) FMS シミュレータの構築に関する研究

范 洪(日本ユニシス)

〔概要〕 「競合発生時の FMS の状況に応じた適切な優先規則の選択」による FMS シミュレータの試作を論ずる。

(9) プログラム設計における並列処理概念の導入

三浦康雄(日本ユニシス)

〔概要〕 並列処理の考え方を取り入れたアプリケーションプログラムの設計方法, および事例について述べる。

●将来の情報システムを語る会

—14:10~15:10—

(10) 基調講演: 21世紀に向けての情報システムの展望

岡本行二(東芝)

—15:30~17:30—

(11) パネル討論: 企業における情報システム部門の将来(仮題)

司会: 内田和義(通産省)

パネラ: 増野 享(エスケークサ), 藤野幸嗣(梅林建設)

トーマスハーゲマン(ドイツ国立情報処理研), 大谷 明(NTTデータ)

●フリーディスカッション

—17:30~18:30—

◆ 第71回 コンピュータビジョン研究会

(発表件数: 4件)

(主査: 谷内田正彦, 幹事: 田島譲二, 富田文明)

日 時 平成3年3月28日(木) 13:00~16:00

会 場 機械振興会館 地下3階 研修1号室(所在地は前記参照)

議 題

(1) 複数胃X線像の自動統合解析の構想

喜多泰代(電総研)

〔概要〕 胃を多角的に撮影した複数X線画像を, 胃の柔軟モデルを用いて自動統合解析診断を行う構想について述べる。

(2) 非エピソード画像による物体速度の推定

間瀬健二(NTT)

〔概要〕 動画像の時空間表現の非エピソード画像を使って, 動物体の速度を推定する方法を提案する。

(3) 物体の分光反射率と反射モデル

富永昌治(大阪電通大)

〔概要〕 物体の反射光データから表面の分光反射率を推定し, その物体のカラー反射の仕方を分類する手法を述べる。

(4) 測定用専用物体を使用しないカメラキャリブレーション

深田陽司(ATR)

〔概要〕 測定用の専用物体を使用せず, 情景中の部屋の隅等を利用してキャリブレーションを行う手法を述べる。

◆ 計算機アーキテクチャ研究会

第80回 研究会を下記の通り開催いたします。奮ってご参加下さい。詳細は次号（3月号）に掲載いたします。

日 時 平成3年4月22日（月）9：00～17：00（予定）

会 場 日本電気新本社ビル（NEC スーパータワー）地下1階 多目的ホール

議 題 特集：光コンピュータ（予定）

*NEC スーパータワーの見学も予定しています。

◆ 情報システム研究会

第34回 研究会の発表を下記のとおり募集いたします。奮ってご応募ください。

日 程 平成3年5月21日（火）

会 場 機械振興会館（予定）

議 題 特集：公共情報システム

最近の公共情報システムにおける、ネットワークとデータベースの巨大化ならびに分散化の問題、そのようなシステム開発の具体例、社会に対する効果、システム開発の方法論、適用された新技術と今後の課題などの発表を歓迎します。

発表申込締切 平成3年2月25日（月）

◆ 第83回 データベース・システム研究会

下記の研究会への皆様のご参加、ご発表をお待ちしております。

日 程 平成3年5月24日（金）

会 場 図書館情報大学

発表申込締切 平成3年2月28日（木）

* 研究会に発表ご希望の方は研究会発表申込書（本欄末添付）に発表題目と50字以内の概要を記入のうえ、学会事務局研究会係までご送付ください。

◆ 第84回 データベース・システム研究会

「データベース金印よかとワークショップ」開催について

情報処理学会データベース・システム研究会および電子情報通信学会データ工学研究会は毎年7月に合同でデータベースに関する研究会を開催しております。一昨年は沖縄で、昨年は北海道で開催し実り多い成果が得られました。本年も下記のように福岡で開催いたします。皆様奮ってご参加下さい。発表論文募集等、詳細については具体案ができれば本欄にてお知らせいたします。（*本年は開催地の福岡および「志賀島」にちなんで表記の愛称をつけました。）

日 程 平成3年7月17日（水）午後～19日（金）午前

場 所 福岡県志賀島（しかのしま）国民休暇村（福岡湾に浮かぶ海のリゾート地です Tel. 092 (603) 6631）

*宿泊は国民休暇村に約30名分の部屋を用意します。

テ ー マ データベース応用と研究開発の現場から

オブジェクト指向データベースや演繹データベースなど、新しいデータベースの研究はほぼ先が見えてきました。今後どんなことを研究開発すべきか悩んでおられる研究者もおられるかもしれません。一方、現場の技術者の方々は現実の課題に苦勞されておられるかも知れません。このような状況を踏まえて、研究者と企業の現場の技術者との忌憚のない意見・見解の交換の場としたい。研究者には「いま取り組もうとしている研究」について、現場の技術者には「泥臭い仕事」について気楽に発表していただく場です。

特別講演 上林弥彦（京大）

連絡先 〒812 福岡市東区箱崎 6-10-1 九大・工・情報工学 牧之内顕文

Tel. 092 (641) 1101 内 6055 FAX 092 (632) 5204 Em akifumi@csee.kyushu-u.ac.jp

平成3年度研究会のお知らせ

平成3年度は、下記のとおり**21研究会**（*：新設1，統合1（ソフトウェア基礎論とプログラミング言語の2研究会の統合））で行います。

- 年間をとおして参加の場合は登録をお願いします。（ただし、本学会員に限る。）
- 登録されていない会員は研究会当日、資料代 ¥ 1,000（学生 ¥ 500）をいただきます。（ただし、部数に制限があります。）

研究会名		主査 幹事		取り扱う研究分野の例
1	自然言語処理	○野村 浩郷	田中 裕一 徳永 健伸 内藤 昭三	言語処理, 言語行動, 言語資料・統計, 漢字処理, 専門用語・辞書, 構文解析, 意味・文脈処理, 談話処理, 知識処理, 機械翻訳, 情報検索, 自然言語処理ソフトウェア
2	データベース・システム	○増永 良文	北川 博之 田中 克己 鶴岡 邦敏	基礎理論, データモデル, DB 設計, DB 言語, 質問処理, 並行処理, 分散 DB, DB プロセッサ, マルチメディア DB, オフィスシステム, エンジニアリング DB, 知識ベース, ユーザインタフェース, 知能 DB, オンラインシステム, 演繹 DB, オブジェクト指向 DB, DB 応用他
3	人工知能	○石塚 満	原口 誠仁 松原 裕之 吉田 之	知識表現, 推論・探索, 学習, 認知モデル, ニューラルネットワーク, 知識ベース, エキスパートシステム, ファジー理論, パターン・自然言語の理解, 知的インタフェース, 分散 AI, AI アーキテクチャ
4	記号処理	○竹内 郁雄	相場 亮 小谷 善行 多田 好克	リスト, 文字列, オブジェクト, プログラム自身などの記号処理 (含並列), アーキテクチャ, 計算モデル, 言語 (Lisp, Prolog, オブジェクト指向言語など), 処理系, ツール, 応用 (数式処理, AI, プログラミング環境など)
5	ソフトウェア工学	○原田 賢一	宇都宮 公訓 大槻 繁仁 大蒔 和	プログラム設計方法, 形式的仕様・プログラム図式, プログラミング方法論, 検査・検証, ソフトウェアツール, 開発環境, 再利用・プログラム合成, 管理, メトリックス, 人的要因, 教育
6	マイクロコンピュータとワークステーション	○加藤 肇彦	金子 博昭 氷治 義弘 山田 剛	マイクロコンピュータとワークステーションに関し, 1. ハードウェア (インタフェース, アーキテクチャ, マイクロプログラム, マルチプロセッサ), 2. オペレーティング・システム (汎用 OS, リアルタイム OS), 3. 開発支援環境 (言語と言語処理系, 仕様記述・評価, 検証技術), 4. 各種応用分野, 5. 他の技術分野との境界領域
7	計算機アーキテクチャ	○富田 眞治	後藤 厚宏 村上 和彰 横田 実	計算機システムのアーキテクチャ全般 (構成・設計・制御・利用技術), 並列処理アーキテクチャ, VLSI アーキテクチャ, 各種専用計算機アーキテクチャ
8	オペレーティング・システム	○吉澤 康文	清水 謙多郎 園部 正幸 田胡 和哉	1. OS の基礎・構造論, 2. 新 OS 構築の事例, 3. 並列・分散処理 OS, 4. 計算機システムの性能評価・解析ならびに信頼性, 5. OS の人間工学的設計論, プログラミング開発環境, 6. 関連する計算機システムの諸問題
9	コンピュータビジョン	○谷内田正彦	尺長 健 富田 文明	視覚情報処理: 画像処理, 画像理解, 物体認識, 3次元復元, ステレオ視, モーション, ロボットビジョン, 視覚モデル, 画像データベース, 画像プロセッサなど
10	設計自動化	○小澤 時典	川戸 信明 佐藤 政生 村岡 道明	LSI, プリント基板, 論理装置の設計自動化に関連した分野: ハードウェア設計言語, 論理合成, シミュレーション, 設計検証, テスト容易化設計, テスト, 診断, レイアウト自動設計, 設計エキスパートシステム, CAD エンジン等

研究会名		○主 査 幹 事		取り扱う研究分野の例
11	マルチメディア通信と分散処理	○河岡 司	滝沢 誠 寺中 勝美 水野 忠則	マルチメディアによる高度情報通信ネットワークおよび分散処理システム (LAN, 広域網, 分散コンピューティング, ネットワーク管理, グループウェア, 知的通信等)
12	ヒューマンインタフェース	○安西祐一郎	井関 治 小川 克彦 廣瀬 通孝	1. 計算機システムのヒューマンインタフェース, 2. 認知情報処理のモデル, 3. インタフェースシステム, 4. 協調作業のインタフェース, 5. インタフェースとコミュニケーション, 6. 日本文入力方式, 7. 文書処理方式とオフィスオートメーション
13	グラフィクスと CAD	○中嶋 正之	宇野 栄 西原 清一 間瀬 健二	グラフィクスソフトウェア, グラフィクスハードウェア, グラフィクス言語, 図形処理と表示アルゴリズム, 形状処理, アニメーション, ユーザインタフェース, CAD/CAD, AI の CAD への応用, グラフィクスワークステーション
14	数値解析	○浜田 穂積	関口 智嗣 土谷 隆 吉原 郁夫	・数値計算とその解析, ・スーパーコンピュータによる超大型計算, ・数学ソフトウェアの移植, ・数式処理との結合, ・計算機や言語への提案
15	情報システム	○伊吹 公夫	槻木 公一 西原 良 初瀬川 茂	情報システム (OIS, MIS, 情報サービスなど) の分析, 設計, 構築, 利用, 情報ニーズ, 情報・データの管理などの理論と実際, 情報システムと人間・組織, 社会
16	*プログラミング 一言語・基礎・実践— (ソフトウェア基礎論と プログラミング言語の 2研究会の統合)	○安村 通晃	久世 和資 秋谷 昌己 松岡 聡	1. 計算のモデルとプログラミングの基本概念, 2. プログラミング言語とその設計, 3. プログラミング言語の実現, 4. プログラミング工程と支援環境, 5. プログラミングのための新しい概念, 方法, パラダイム
17	情報学基礎	○有川 節夫	岩野 和生 根岸 正光 吉田 郁三	1. 情報の表現, 認識, 分類, 評価の手法など, 2. 情報の標準化, 流通, 管理の方式など, 3. 大量のマルチメディア情報, 文字情報, 非文字情報の処理など
18	コンピュータと教育	○有山 正孝	雨宮 幸雄 大槻 説 竹谷 平誠	1. 学校および企業における情報分野の専門技術者・研究者の育成, ならびにリテラシーとしての一般的情報処理教育のカリキュラム, 具体的教育法, 実践例等, 2. 知的 CAI を含む教育における計算機応用.
19	アルゴリズム	○西関 隆夫	浅野 孝夫 岡本 栄司 安浦 寛人	1. グラフ, ネットワーク, VLSI などに関する離散アルゴリズム, 2. 計算幾何学と計算代数学, 3. 暗号, 符号などの数論的アルゴリズム, 4. 確率アルゴリズム, 近似アルゴリズム, 5. 並列アルゴリズム, 分散アルゴリズム, ハードウェアアルゴリズム, 6. データ構造, 7. 計算複雑さの理論
20	人文科学と コンピュータ	○杉田 繁治	及川 昭文 小沢 一雅 洪 政国	1. 人文科学, 博物館・美術館への情報処理, コンピュータの応用要素と実現技術, 2. 人文科学系ユーザにとって柔軟なユーザ・インタフェースの実現要素と技術, 3. 情報処理と人文科学系間での学際的協力, 4. コンピュータ, 情報処理の社会的側面
21	*新 設 情報メディア	○相磯 秀夫	石塚 英男 上林 憲 田中 護 中川 透	情報メディアの科学と工学: 1. メディアの電子化, ハイパー化, 映像化, 2. メディア機械 (仮想現実等), 3. メディアの創作, 編集, 表現, 伝達, 管理, 理解のメタファと環境

◆ 研究発表会開催予定 (1991年4月～1992年3月)

(研究会名)	(開催日・会場他)
自然言語処理	5月17日(金) 長崎大 7月19日(金) KDD(上福岡) 9月20日(金) 東北大 11月15日(金) NTT(武蔵野) 1月17日(金) 中京大 3月20日(金) 徳島大
データベース・システム	5月24日(金) 情報大 7月17日(水)～19日(金) 志賀島国民休暇村(福岡) 9月27日(金) 機・B3-研2 11月8日(金) 高度通信システム研(仙台) 3月中旬 機
人工知能	5月22日(水) 機・B3-2 7月中旬 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月中旬 日電(東京) 11月26日(火) 機・B3-2 1月16日(木)・17日(金) ATR 3月 ICOT
記号処理	6月21日(金) 慶大(藤沢) 9月13日(金) 徳島大 11月29日(金) 電通大 1月16日(木)・17日(金) ATR 3月13日(金) NTT(武蔵野)
ソフトウェア工学	6月25日(火) 機・B3-2 7月中旬 地方 10月4日(金) 東京 12月3日(火) 機・B3-2 2月6日(木)・7日(金) 地方 3月3日(火) 機
マイクロコンピュータとワークステーション	5月10日(金) 機・B3-1 6月14日(金) 機・B3-1 7月5日(金) 機・B3-1 10月11日(金) 東北大 1月 機 2月 機
計算機アーキテクチャ	4月22日(月) 日電(東京) ※光コンピュータ 7月中旬 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月または10月 東大・生研 ※データベースマシン 11月下旬 四国 1月 上信越 3月中旬 東京
オペレーティング・システム	7月中旬 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月6日(金) 機・6F65 12月6日(金) 機・B3-2 3月19日(木) 機
コンピュータビジョン	5月17日(金) 北大 7月12日(金) 琉球大 9月20日(金) 東工大 ※モデリングと表現 11月22日(金) 富士通研 ※モーション 1月23日(木)・24日(金) 阪大 ※環境の認識と理解 3月26日(金) 機 ※知識と学習
設計自動化	5月10日(金) 機・6F65 7月12日(金) 北大 ※レイアウト 10月8日(火)・9日(水) 機・6F65 ※Design & Test 12月12日(木)・13日(金) 京都 ※論理合成・シミュレーション 2月21日(金) 機 ※CAD フレームワーク
マルチメディア通信と分散処理	5月16日(木)・17日(金) 山梨大 7月5日(金) 機・B3-2 9月24日(火)～27日(金) NTT(札幌) 1月23日(木) 機・B3-2 3月5日(木) 機

ヒューマンインタフェース	5月9日(木) 機・B3-2 7月4日(木) 機・B3-2 9月12日(木) 機・B3-2 11月7日(木) 機・B3-2 1月16日(木) 機・B3-2 3月2日(月)・3日(火) 北大
グラフィクスとCAD	5月24日(金) 東大 ※幾何モデリング 7月26日(金) 機・B3-2 8月15日(木)・16日(金) 浜名荘(浜松) (集中研究) 10月中旬 名大 12月20日(金) 機・B3 研-2 2月21日(金) 日電(大阪)
数値解析	7月中旬 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 10月19日(土) 名大 12月6日(金) 機・B3-1 3月 統数研
情報システム	5月21日(火) 機・B3-2 ※公共情報システム 7月16日(火) 機・6F67 10月15日(火) 機・B3-2 1月21日(火) 機・B3-2 3月17日(火) 東京(第2回若手の会)
情報学基礎	5月28日(火) 機・B3-1 ※大量データベースにおける発見 7月10日(水) 機・B3-2 ※分類と学習 9月10日(火) 機・B3-2 ※ゲノム解析のためのアルゴリズム 11月12日(火) 情報大 ※情報化社会における電子化図書館の進展
コンピュータと教育	4月26日(金)・27日(土) 機・6F65 ※知的CAI 5月17日(金) 機・6F65 7月19日(金) 宇都宮大 9月20日(金) 機・B3-9 11月15日(金) 九工大 ※知的CAI 1月17日(金) 機・B3-2
アルゴリズム	5月29日(水) 東大 7月22日(月) 名工大 9月20日(金) 宮崎大 11月22日(金) 神戸大 1月24日(金) 日電(川崎) 3月 慶大(藤沢)
人文科学とコンピュータ	5月24日(金) 国際文化センター(京都) 9月6日(金) 金沢工大 10月14日(月) 東京 11月29日(金) 川崎市民ミュージアム 3月6日(金) 出雲
※プログラミング 一言語・基礎・実践— (ソフトウェア基礎論と プログラミング言語) の2研究会の統合	4月26日(金) 日本IBM 6月21日(金) 慶大(藤沢) 7月中旬 函館プリンスホテル ※並列/分散/協調処理 9月27日(金) 機・研-2 11月 筑波 ※並行・並列・分散 1月 機
※新設 情報メディア	5月24日(金) 慶大(藤沢) 7月12日(金) 北大 9月13日(金) 東京 11月8日(金) 東京 1月10日(金) 東京

注) 機-機械振興会館

※-特集・テーマ

* 各研究会に発表申込希望者は開催日の3カ月前までに研究会発表申込書(本欄末添付)を事務局研究会係までご送付ください。

年 月 日

研究会発表申込書 (様式 4)

太線枠内のみご記入ください。

研究会名	研究会										
発表希望の 研究会開催日	年 月 日 ()										
タイトル											
発表者名 (略称所属)											
概要 (50 字以内)											
発表申込者住所	〒	Tel. — — (内線)									
氏 名											

年 月 日受付

研究会名 資料 No. 開催日 幹事送付済み その他

		年 月 日		
--	--	-------	--	--

会 誌

ソフトウェア基礎論研究会・プログラミング言語研究会 統合のお知らせ

●統合の目的

現在、情報処理学会には、計算機ソフトウェアの諸側面を中心的に扱う研究会として、記号処理、ソフトウェア工学、ソフトウェア基礎論、プログラミング言語等の研究会があります。しかしながら、これらのうち、特にソフトウェア基礎論研究会とプログラミング言語研究会の担当分野には少なからぬ重複がみられるに至っております。

そこで、両研究会の担当分野に関する研究会組織をより強固にし、そこに研究者を結集させることが重要であると考え、ソフトウェア基礎論研究会とプログラミング言語研究会を統合し、新しい研究会を平成3年度より発足させることにいたしました。

両研究会を統合することによって、研究発表会の開催頻度、発表件数、参加者を増加させることができ、参加者や発表者の利便を向上させることができると思われます。また、統合を機に、理論研究と実践研究との交流をさらに促進したいと考えております。

最近、複数研究会の共催による特集研究会がいくつか開催され、その規模が順調に拡大しているのを見ましても、研究会の統合は、とすれば細分化しがちである研究会活動の活性化にとって積極的な意義を持つと考えられます。

●新研究会の名称

プログラミング一言語・基礎・実践一研究会

(Theory and Practice of Programming and Programming Languages, 略称: PRG)

●新研究会役員

主査: 安村通晃 (慶大)

幹事: 久世和資 (日本IBM), 萩谷昌己 (京大), 松岡 聡 (東大)

●主要な研究分野

プログラミングという計算機科学の基本的分野を、理論的側面と実践的側面の両面から扱う。ここでいうプログラミングとは、プログラミング工程全般を含む広い範囲を対象とはするが、特に、大規模なプログラムの効率的作成といった量的側面よりも、むしろより基本的・質的側面(形式的方法を含む)を主に扱う。

より具体的には、下記の分野が含まれる(関連の深いキーワードを括弧内に示す)。

1. 計算のモデルとプログラミングの基本概念
(論理, 関数, 並列・並行・分散, 制約, オブジェクト指向, 書換え, データ型, 制御, 構成的プログラミングなど)
2. プログラミング言語とその設計
(言語機能, 意味論など)
3. プログラミング言語の表現
(コンパイラ, 最適化技法, 性能評価など)
4. プログラミング工程と支援環境
(仕様記述, 検証, プログラム合成, プログラム解析, デバッグなど)
5. プログラミングのための新しい概念, 方法, パラダイム

情報処理学会 第42回 全国大会（平成3年前期）参加について

- 開催期日** 平成3年3月12日(火)～14日(木)
会場 東京工科大学（八王子市片倉町）
プログラム 詳細は本号黄色のページに掲載してあります。交通、会場などはプログラムの会場案内図を参照してください。

一般参加の方へ

1. **総受付** 講義棟C1階ピロティ
2. **参加費** 会員 1,000円（賛助会員は1口1名として正会員に準じます。）
非会員 2,000円（ただし電気、電子情報通信、照明、テレビジョンの各学会会員は会員扱いとします。会員番号を申し出てください。）
学生 無料
3. **論文集 定価** 6,000円（予約は締切りました。）
（当日、予約者以外にお頒けできるのは、残部のある場合に限りです。）

◎ 参加される方は、受付にて参加費を納め、参加章を受けとってください。参加章のない方は会場に入れません。

一般講演を行う方へ

1. 講演者は、講演の始まる前に、必ず各セッション会場前の講演者受付で、出席の確認を受けてください。
2. 講演者は、前の講演者の講演時間中に、座長席の前に設けられた「講演者控」で待機するようにしてください。
3. 一般講演の時間は、質疑を含めて、15分を原則とします（都合により13分のセッションもあります）。講演中でも時間がくれば打ち切ります。
4. 講演終了予定時刻の5分前および3分前に座長補佐がベルで合図します。
5. 講演の代読は認めません。

学術奨励賞の表彰

大会初日（12日）午後には第41回全国大会奨励賞受賞者の表彰をA会場で行います。

（その他の一般注意）

1. 食堂、休憩室などはプログラムの会場案内図等を参照のこと。
2. 電話の呼び出しはいたしません（万一止むを得ない場合のみ、伝言板に掲示：Tel. 0426 (37) 1114）。
3. 駐車場がないので、自家用車による参加はできません。

第43回 全国大会（平成3年後期）の開催について

平成3年度秋の第43回全国大会は下記により開催される予定です。大会実施要領は4月号本欄に掲載されますので、ご注意ください。

- 期日** 平成3年10月20日(日)～22日(火)
場所 名古屋大学（名古屋市千種区不老町）

第 42 回 全国大会 奨励賞候補の推薦について

全国大会で優秀な論文を発表した会員の中から、大学学部卒業後 10 年未満（またはこれと同等）の若手の科学者・技術者約 10 名を選び、奨励賞を贈呈し表彰いたしております。

つきましては、来る 3 月 12 日～14 日に東京工科大学で開催される第 42 回全国大会での登壇発表者の中から、下記により受賞候補者 1 名をご推薦くださいますようお願いいたします。

また、第 42 回全国大会参加者には会場に推薦用紙を用意してありますので、会場でご推薦くださるようお願いいたします。

なお、受賞者の選定は奨励賞委員会（委員長 石田副会長）で行い、その発表と表彰は 10 月に開催の第 43 回全国大会（名古屋大学）時に行われる予定です。

記

選定範囲および推薦数

第 42 回全国大会で発表された優秀な論文の登壇発表者 1 名

推薦資格 本学会正会員に限る。

推薦方法 官製はがきに、推薦する論文の ①講演番号 ②題目 ③登壇発表者名 ④所属 ⑤出身校（学部）卒年 ⑥推薦理由および推薦者の氏名、所属、住所をもれなくご記入のうえ、本会奨励賞係あてお送りください。

推薦締切 平成 3 年 3 月 29 日（当日消印有効）

表 彰 規 程（抜 粋）

第 5 章 奨 励 賞

第 19 条 奨励賞は、情報処理に関する学問、技術の奨励のため、有為と認められる新進の科学者または技術者に贈呈する。

第 20 条 奨励賞を受ける者は、全国大会において優秀な論文を発表した者で、つぎの各号に該当する者から選定する。

- イ 選定の時期において本会会員であること（選定の時期とは、第 1 回の委員会開催時とする。）
- ロ 講演の時期において大学の学部卒業後 10 年未満の者またはこれと同等と認められる者であること。
- ハ 大会参加申込の際講演者として登録かつ講演を行った者であること。
- ニ 本奨励賞を受けたことのないものであること。

第 21 条 第 20 条の選定は、全国大会終了後速やかに行う。

第 22 条 奨励賞は、毎回約 10 名ずつ選定し、贈呈する。

第 23 条 奨励賞は、賞状、賞牌および賞金とする。

- 2. 賞金は、1 名につき 20,000 円とする。

第 42 回 全国大会「チュートリアル・セッション」開催について

本会では、今回から可能な限り、大会の前日にチュートリアル・セッションを開催することになりました。多数の会員が一堂に会する機会にチュートリアル・セッションを開催し、会員の方々の関心のあるテーマを取り上げ、理解を深めたいと考え、この分野の第一線で活躍の専門家により、最新の技術、さらには将来展望をも含めたチュートリアル・セッションを考えております。

つきましては、標記チュートリアル・セッションを下記により企画いたしました。この機会に奮ってご参加されるようお勧めいたします。

日 時 平成 3 年 3 月 11 日(月) 10:00~17:00
場 所 東京工科大学 (八王子市片倉町)
参加費 会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生 1,500 円 (どちらのセッションも聴講できます。)
 (資料のみ 4,000 円, 送料込)
申込締切 平成 3 年 2 月 28 日 (木)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

T1: ハイパーメディア — コンピュータからマインドツールへ

10:00~10:10	あいさつ	横井 俊夫 (EDR)
10:10~12:00	1. プラットフォームとしてのハイパーメディア	田中 謙 (北大)
12:00~13:00	[昼休み]	
13:00~14:50	2. ハイパーメディアの研究動向	金子 朝男 (日電)
14:50~15:00	[休憩]	
15:00~16:50	3. 応用から見たハイパーメディア	本田 克己 (横河ヒューレット・パッカード)

T2: CASA — 方法論とツールの統合へ—

10:00~10:10	あいさつ	春原 猛 (三菱)
10:10~12:00	1. ソフトウェア開発方法論と CASE ツール	落水浩一郎 (静岡大)
12:00~13:00	[昼休み]	
13:00~14:50	2. 構造化分析/構造化設計方法論とツール	立田 種宏 (ソニー・テクトロニクス)
14:50~15:00	[休憩]	
15:00~16:50	3. オブジェクト指向設計方法論とツール	

中谷多哉子, 羽生田栄一 (富士ゼロックス情報システム)

* 青木 淳氏の都合により講演者が変更になりました。

~~~~~

## 第42回 全国大会「チュートリアル・セッション」

## 参加申込書

平成3年 月 日

標記チュートリアル・セッションの参加を下記によって申し込みます。

## ○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 10,000円 非会員 15,000円 学生会員 1,500円

\*参加費には，資料代が含まれています。

## ○テキストのみ（4,000円，送料込）\_\_\_\_\_冊

## ○申込先 情報処理学会 チュートリアル係

106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

## ○送金方法

\* \_\_\_\_\_円を a) 当日，会場受付にて支払います。

b) \_\_\_\_\_月 \_\_\_\_\_日送金します。

\*（bを選択したかたのみご記入ください）

b-1) 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル  
（社）情報処理学会 チュートリアル係）

b-2) 銀行振込（いずれも普通預金口座）

第一勧銀虎ノ門支店 1013945 富士銀行虎ノ門支店 993632

三菱銀行虎ノ門公務部 0000608 太陽神戸三井銀行東京  
営業部 4298739

住友銀行東京公務部 10899 三和銀行東京公務部 21409

名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会

・送金先銀行名 \_\_\_\_\_銀行宛

・送金取扱銀行名 \_\_\_\_\_銀行 \_\_\_\_\_支店より

・送金人名義 \_\_\_\_\_様

\* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通

請求先 \_\_\_\_\_

注) 申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

.....  
(楷書でハッキリ記入してください)申込者  
連絡先 〒 \_\_\_\_\_

所属名 \_\_\_\_\_

フリガナ

氏名 \_\_\_\_\_ 殿

Tel. \_\_\_\_\_ (ex. \_\_\_\_\_) Fax. \_\_\_\_\_

## 第6回「コンピュータ通信ワークショップ (JWCC-6: Joint Workshop on Computer Communications)」の論文募集

マルチメディア通信と分散処理研究会では、コンピュータ通信、分散処理等について、海外からの研究者も含めて、幅広く議論を行うために、下記の要項でワークショップを開催いたします。特に若手の研究者の応募を歓迎致します。

日時 1991年7月17日(水)~19日(金)

場所 北九州プリンスホテル

トピックス 通信プロトコル、マルチメディア通信、ネットワーク管理、アカデミックネットワーク、分散処理、分散型データベースシステム、グループウェア等

- 実施方法
- (1) 発表論文は、英文とし、公募します。発表も英語で行います。
  - (2) 応募される場合は、アブストラクト (A4判で5ページ以内) を4月15日(月)までに提出してください。審査結果は、5月1日(水)までにお知らせします。本論文は、A4判で8ページ以内で、カメラレディなものを6月1日(土)までに2部提出してください。論文は、郵送に加えて、電子メール\* が利用できます。
  - (3) 国内の研究者に加えて、海外からの参加もあります。
  - (4) 参加費用は、以下のとおりです。

参加費用

会議参加及び宿泊: 50,000円(一般) 35,000円(学生)

会議参加: 35,000円(一般) 15,000円(学生)

論文送付先 〒350-03 埼玉県比企郡鳩山町石坂 東京電機大学理工学部経営工学科 滝沢 誠

Tel. 0492 (96) 2911 (ext. 2406)

Fax. 0492 (96) 6185 (or 0501)

E-mail jwcc@k.dendai.ac.jp

or taki@takilab.k.dendai.ac.jp

または

〒142 品川区登町 2-11-16 国文学研究資料館 松方 純

Tel. 03 (3785) 7131 (ext. 405)

Fax. 03 (3784) 8875

E-mail jm@nijl.ac.jp

備考) 参加申込み等については、今後本欄でお知らせいたします。

\* 電子メールの場合、TeX, troff のソースファイルも可能です。その場合、マクロの指定など印字方法の説明をつけてくださるようお願い致します。



# 「コンピュータ・システム・シンポジウム」の開催について

—新しいオペレーティング・システム—

標記シンポジウムを、オペレーティング・システム研究会が主体となり開催いたします。下記の要領により実施いたしますので、みなさま奮ってご参加ください。また、懇親会も1日目に予定しております。ご参加をお待ちしております。

日 時 平成3年3月26日(火)～27日(水)  
場 所 東京大学山上会館(文京区本郷)  
参加費 会員10,000円, 非会員15,000円, 学生1,500円(論文集のみ5,000円)  
懇親会費 3,000円  
申込締切 3月18日(月)

## ~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

### 第1日 3月26日(火)

開会挨拶(9:30~9:40) 吉澤 康文(日立)

基調講演(9:40~10:15) 司会 吉澤 康文(日立)

●オペレーティング・システムの研究とその背景 亀田 壽夫(電通大)

セッション1 分散OSI(10:15~12:30) 座長 田胡 和哉(日本IBM)

●無指向的オペレーティング・システム XERO の設計  
加藤 和彦, 猪原 茂和, 成田 篤信, 千葉 滋, 益田 隆司(東大)

●Autonomous Decentralized System and Its Operating System  
Kinji Mori, Masayuki Orimo, Katsumi Kawano, Shigeki Hirasawa(日立)

●知的分散OS—放送型オブジェクト指向分散OS— 関 俊文, 長谷川哲夫, 岡宅 泰邦, 田村 信介(東芝)  
招待講演(13:30~14:30) 司会 田胡 和哉(日本IBM)

●The Dawn of a New Computing Era David Black(OSF)(予定)

セッション2 システム設計と評価(14:45~16:15) 座長 加藤 和彦(東大)

●Parametric Analysis of Optimal Static Load Balancing in Distributed Computer Systems  
張 勇兵, 亀田 壽夫, 清水謙二郎(電通大)

●OS/omicron の設計方針とその構成について  
並木美太郎, 早川 栄一, 池尻 宏, 中川 正樹, 高橋 延匡(農工大)

セッション3 分散・粗結合システム(16:30~18:00) 座長 福田 晃(九大)

●バックプレイン・ネットワークによるプロセッサ間通信とリモートシステムコール  
下島 健彦, 関 啓一(日電), 有野 康仁, 田村 孝夫, 茂木あゆみ, 山名 千秋,  
中村 恒(日電マイコンテクノロジー)

●クライアント・サーバ構成を指向したオペレーティング・システムの設計  
田胡 和哉, 根岸 康, 千場美佳子(日本IBM)

### 第2日 3月27日(水)

セッション4 並列OS(9:45~12:00) 座長 並木美太郎(農工大)

●可変構造並列計算機のメッセージ指向並列OSとシミュレーションによるスレッド並列生成の評価  
恒富 邦彦, 福田 晃, 村上 和彰, 富田 真治(九大)

●A-NET 並列オブジェクト指向計算機のオペレーティング・システム 吉永 努, 馬場 敬信(宇都宮大)

●並列システムの進歩: バッチ環境からマルチタスク環境へ 神田 陽治, 前田 宗則(富士通)

招待講演(13:00~14:00) 司会 清水謙二郎(電通大)

●Transparency in the Design of Distributed Systems Tom Bishop(UNIX インターナショナル)(予定)

セッション5 分散OS II(14:15~15:45) 座長 清水謙二郎(電通大)

●MUSE: 次世代計算機環境のためのオペレーティング・システム  
横手 靖彦(Sony CSL), 所 真理雄(慶大)

●The Design of the GALAXY Distributed Operating System  
Xiaohua Jia, Mamoru Maekawa(東大)

Kentaro Shimizu(電通大)

司会 高橋 延匡(農工大)

パネル討論(16:00~17:30)

●新しいオペレーティング・システム  
パネリスト 加藤 和彦(東大), 石川 裕(電総研), 萩野 達也(慶大), 横手 靖彦(Sony CSL)

「コンピュータ・システム」シンポジウム  
参加申込書

平成 年 月 日

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

○参加費（該当するものを○でかこむ）

正会員，賛助会員 10,000 円 非会員 15,000 円 学生会員 1,500 円

\*参加費には，資料代が含まれています。

○懇親会費（3,000 円） \_\_\_\_\_ 名

○資料のみ（5,000 円，送料込） \_\_\_\_\_ 冊

○送金方法

- \* \_\_\_\_\_ 円を a) 当日，会場受付にて支払います。
- b) \_\_\_\_\_ 月 \_\_\_\_\_ 日送金します。

\*（b を選択した方のみご記入ください）

b-1) 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル  
（社）情報処理学会 シンポジウム係）

b-2) 銀行振込（いずれも普通預金口座）

|                                |         |                   |         |
|--------------------------------|---------|-------------------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店                      | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店         | 993632  |
| 三菱銀行虎ノ門公務部                     | 0000608 | 太陽神戸三井銀行東京<br>営業部 | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部                      | 10899   | 三和銀行東京公務部         | 21409   |
| 名義人 東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会 |         |                   |         |

- ・送金先銀行名 \_\_\_\_\_ 銀行宛
- ・送金取扱銀行名 \_\_\_\_\_ 銀行 \_\_\_\_\_ 支店より
- ・送金人名義 \_\_\_\_\_ 様

\* 請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 通，見積書 通，納品書 通  
請求先 \_\_\_\_\_

注）申込書は1枚1人としてください。（コピーで申し込むこと）

○申込先

情報処理学会 シンポジウム係 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル3 F

Tel. 03 (3505) 0505 FAX 03 (3584) 7925

.....  
（楷書でハッキリ記入してください）

申込者  
連絡先 〒 \_\_\_\_\_

所属名 \_\_\_\_\_

フリガナ  
氏 名 \_\_\_\_\_ 殿

Tel. \_\_\_\_\_ (ex. \_\_\_\_\_) Fax. \_\_\_\_\_

会  
告

**ISSMM 開催のお知らせ**  
**International Symposium on Shared Memory Multiprocessing**  
**共有記憶型並列処理国際シンポジウム**

**日 時** 1991年4月1日(月) 19:00~21:00 レセプション  
 4月2日(火) 9:00~16:45  
 4月3日(水) 9:00~17:00 18:00~20:00  
 4月4日(木) 9:00~12:00

**場 所** 池袋サンシャイン・プリンスホテル  
 シンポジウム サンシャイン 60, 59階トリアノン 桜の間  
 レセプション サンシャイン 60, 59階トリアノン 梅の間  
 バンケット サンシャイン・プリンスホテル3階 天山の間

**参加費** 30,000円(レセプション, バンケット込)

**申込締切** 1991年3月25日(定員250名になり次第締め切らせていただきます)

~~~~~ プ ロ グ ラ ム ~~~~~

Monday, April 1 1991
 19:00~21:00 Reception Sunshine 60 Trianon Ume Room

Tuesday, April 2 1991
 9:00 Opening Remarks Sunshine 60 Trianon Sakura Room
 N. Suzuki (IBM Tokyo Research Lab.)

Session 1 Experience I Chair: T. Masuda (U. Tokyo)

9:15 Experiences with Parallel Symbolic Computation Algorithms
 E. M. Clarke, D. E. Long, S. Michaylov, S. A. Schwab, J. P. Vidal (CMU)
 and S. Kimura (Kobe University)

9:45 Experimental Evaluation of Algorithmic Performance on Two Shared Memory Multiprocessors
 A. Sivasubramaniam, G. Shah, J. Lee, U. Ramachandran,
 and H. Venkateswaran (Georgia Institute of Technology)

10:15 Coffee Break

Session 2 Compiler Chair: T. Agerwala (IBM)

10:45 An Empirical Investigation of the Effectiveness and Limitations of Automatic Parallelization
 J. P. Singh and J. L. Hennessy (Stanford University)

11:15 Fine-Grain Loop Scheduling for MIMD Machines
 C. J. Brownhill, K.-C. Kim, and A. Nicolau (UC Irvine)

11:45 Lunch Break

Session 3 Scalable Architecture I Chair: F. Baskett (Silicon Graphics)

1:15 A Cache Coherence Mechanism for Scalable, Shared-Memory Multiprocessors
 S. L. Scott (U. Wisconsin)

1:45 Fault-Tolerant Design for Multistage Routing Networks
 A. DeHon, T. Knight, and H. Minsky (MIT)

2:15 Dynamic Pointer Allocation for Scalable Cache Coherence Directories
 R. Simoni and M. Horowitz (Stanford University)

2:45 Coffee Break

Session 4 Scalable Architecture II Chair: J. R. Goodman (U. Wisconsin)

3:15 Cenju: A Multiprocessor System with a Distributed Shared Memory Scheme for Modular Circuit Simulation
 T. Nakata, N. Tanabe, N. Kajihara, S. Matsushita,
 H. Onozuka, Y. Asano, and N. Koike (NEC)

3:45 Latency Tolerance in Large-Scale Multiprocessors
 K. Kurihara, D. Chaiken, and A. Agarwal (MIT)

4 : 15 Dverview of the Stanford DASH Multiprocessor

D. Lenoski, J. Laudon, K. Gharachorloo, W-D. Weber, A. Gupta,
and J.L. Hennesy (Stanford University)

Sunshne 60 Trianon Sakura Room

Wednesday, April 3 1991

Session 5 Tools

Chair : N. Koike (NEC)

9 : 00 Restructuring a Parallel Simulation to Improve Cache Behavior in a Shared-Memory Multipro-
cessor : A First Experience

D.R. Cheriton, H. A. Goosen, and P. Machanick (Stanford University)

9 : 30 A Replay Mechanism for Mostly Functional Parallel Programs

R. H. Halstead, Jr. (DEC Cambridge Research Lab.) and D. A. Kranz (MIT)

10 : 00 Coffee Break

Session 6 Operating System

Chair : D. Gifford (MIT)

10 : 30 MUSTARD : A Multiprocessor UNIX for Embedded Real-Time Systems

S. Hiroya, T. Momoi, and K. Nihei (NEC)

11 : 00 Abstracting Data-Representation and Partitioning-Scheduling

G. A. Alverson and D. Notkin (U. Washington)

11 : 30 An Analysis of Synchronization Mechanisms for Shared Memory Multiprocessors

P. J. Woest and J.R. Goodman (U. Wisconsin)

12 : 00 Lunch Break

Session 7 Evaluation and Superscalar

Chair : P. Hilfinger (UC Berkeley)

1 : 30 Throughput and Fairness Analysis of Prioritized Multiprocessor Arbitration Protocol

M. Ishigaki (Nomura Research Institute), H. Takagi (IBM Tokyo Research Lab.),
Y. Takahashi, and T. Hasegawa (U. Kyoto)

2 : 00 Fine Grain Software Pipelining of Non-Vectorizable Nested Loops

K-C. Kim and A. Nicolau (UC Irvine)

2 : 30 A Dynamic Instruction Delivery Pipeline for Superscalar Architecture

T. Chiueh and S-I. Doong (UC Berkeley)

3 : 00 Coffee Break

Session 8

3 : 30 Panel Discussion

6 : 00 Banquet

Tenzan Room at Sunshine Prince Hotel

Thursday, April 4 1991

Sunshine 60 Trianon Sakura Room

Session 9 Experience II

Chair : E. M. Clarke (CMU)

9 : 00 Experience with the Firefly Multiprocessor Workstation

S. Owicki (DEC Systems Research Center)

9 : 30 Design and Evaluation of Snoop-Cache-Based Multiprocessor, TOP-1

S. Shimizu, N. Ohba, A. Moriwaki, and T. Nakada (IBM Tokyo Research Lab.)

10 : 00 Coffee Break

Session 10 Cache

Chair : J.L. Hennesy (Stanford University)

10 : 30 The Kyushu University Reconfigurable Parallel Processor-Cache Architecture and Cache Coherence
Schemes S. Mori, K. Murakami, E. Iwata, A. Fukuda, and S. Tomita (Kyushu University)

11 : 00 An Evaluation of Cache Coherence Protocols for MIN-Based Multiprocessors

S. J. Baylor, K. P. McAuliffe, and B. D. Rathi (IBM TJ Watson Research Center)

11 : 30 Formal Verification of the Gigamax Cache Consistency Protocol

K.L. McMillan (CMU) and J. Schwalbe (Encore Computer Co.)

ISSMM (共有記憶型並列処理国際シンポジウム)

参加申込書

申込者 氏名 _____
 連絡先住所・電話番号 _____
 〒 _____
 _____ Tel. _____

標記シンポジウムの参加を下記によって申し込みます。

参加費 30,000 円 (レセプション, バンケットを含む)
 バンケット・チケット 10,000 円 (同伴の方)
 合計 _____ 円

送金方法 (相当する箇所に○をつけて下さい)

a. 当日持参します。

b. 銀行振込

送金日 _____ 月 _____ 日

銀行振込口座

第一勧業銀行麹町支店 普通口座 1517779

名義人 (社)情報処理学会 (東京都千代田区三番町 5-19)

送金取扱銀行名 _____ 銀行 _____ 支店

送金人名義 _____ 様

請求書類の必要な方はお申し出ください。

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通。

請求先 _____

申込先 このページを郵送あるいはファックスで送付してください。

102 東京都千代田区三番町 5-19

日本アイ・ビー・エム東京基礎研究所 田胡 和哉

Tel. 03-3288-8406

Fax 03-3265-4251

Email: TAGO ©TRLVWI, IINUSI. IBM COM



Call for Attendance

The Second International Symposium on Database Systems for Advanced Applications (DASFAA'91)

[dásfa:]

April 2 - 4, 1991
Kogakuin University
Shinjuku, Tokyo, Japan

Sponsored by:
Information Processing Society of Japan (IPSJ)

Supported by:
Korea Information Science Society (KISS)
Singapore Computer Society (SCS)

In cooperation with:
IEEE Computer Society
ACM SIGMOD

DASFAA is an international symposium which especially focuses on advanced applications of database technologies and/or advanced DBMS technologies. The First DASFAA was held in Seoul, Korea on April 10-12, 1989, with over 200 participants from various countries. The Second DASFAA will bring together researchers, developers and advanced users from academia, business and industry to exchange information and explore new ideas about advanced applications of databases and advanced database technologies.

Schedule (tentative)

| | Apr. 2 | Apr. 3 | | | Apr. 4 | | | |
|-------|----------------------------|----------------------------|------|------|-----------------|------|------|--|
| 9:00 | | | | | | | | |
| 9:30 | Tutorial 1 | S-1 | S-2 | S-3 | S-13 | S-14 | S-15 | |
| 10:50 | | Coffee Break | | | Coffee Break | | | |
| 11:10 | Tutorial 2 | S-4 | S-5 | S-6 | S-16 | S-17 | S-18 | |
| 12:30 | | Lunch | | | Lunch | | | |
| 14:00 | Tutorial 3 | S-7 | S-8 | S-9 | S-19 | S-20 | S-21 | |
| 16:00 | | Coffee Break | | | Coffee Break | | | |
| 16:30 | Break | S-10 | S-11 | S-12 | Panel | | | |
| 18:00 | Reception
(Kogakuin U.) | Banquet
(Keio Plaza H.) | | | Closing Session | | | |

S-n : Technical Session

Tutorials

- Tutorial 1** [in Japanese]
Object-Oriented Data Modeling
Hirotaka Sakai (Chuo University)
- Tutorial 2** [in Japanese]
Data-Oriented System Development Method
Hajime Horiuchi (Hitachi, Ltd.)
- Tutorial 3** [in English]
On JDMF (JIS Data Modelling Facility)
Ryosuke Hotaka (Tsukuba University)
- All tutorial documents are written in English.

Opening Session

- *Welcome Address* by Takeo Miura (IPSJ)
- *Keynote Address* by Won Kim (UniSQL, USA)

Advance Program (tentative)**April 3 (Wednesday)****9:00 - 10:30****Session 1: Query Processing in Object-Oriented Databases***Query Processing in OODB*

HweeHwa Pang, HongJun Lu, BangChin Ooi (National Univ. of Singapore, Singapore)

Semantic Query Processing in Object-Oriented Database Systems

Jong-Jin Sung, Jong-Tae Park (Kyungpook National Univ., Korea)

Answering Queries in Temporal Object-Oriented Databases

Mohamed El-Sharkawi (Kyushu Univ.)

Session 2: Distributed Database Systems*A Hierarchical Export/Import Schema for Data Sharing in a Federated Distributed Database System*

Hyunchul Kang (Chung-Ang Univ., Korea), Sang Hyuk Son (Univ. of Virginia, USA)

The PCTE+'s OMS A Software Engineering Distributed Database System for Supporting Large-Scale Software Development Environments

Flavio Oquendo, Gerard Boudier, Ferdinando Gallo, Regis Minot, Ian Thomas (BULL Corp. Research Center, France)

Implementing a Distributed Real-Time Database Manager

Sang H. Song, Marc S. Poris, Carmen C. Iannacone (Univ. of Virginia, USA)

Session 3: User Interfaces*Desktop Schema Evolution - Editing Schema*

Takao Miura (Sanno College)

A Visual Interface for Personal Information Bases Based on a Concept Network

Itsuko Kiuchi, Takuo Koguchi, Hidefumi Kondo, Hiromichi Fujisawa (Hitachi)

GRIN-QL: A Visual Query Interface for an Engineering Database†

Deepa Krishnan, Toshiyasu L. Kunii (The Univ. of Tokyo)

A Universal Relation Database Interface for High-Level Applications†

Heikki Hyotyniemi, Aarno Lehtola (Helsinki Univ. of Technology, Finland)

11:00 - 12:30**Session 4: Object-Oriented Database Query Languages and Optimization***A Query Algebra for an Extended Object-Oriented Database Model*

George Loizou, Philippos Pouyioutas (Univ. of London, UK)

Performance of Query Optimization Heuristics in Object-Oriented Databases

Kyung Chang Kim (Naval Postgraduate School, USA)

PC++: An Object-Oriented Database System for C++ Applications

Tin A. Nguyen (Sun Microsystems, USA)

Session 5: Database Tools and Models*Translation of SQL Queries Containing Nested Predicates into Pseudonatural Language*

Hirofumi Amano (Kyushu Univ.), Yahiko Kambayashi (Kyoto Univ.)

A Multi-Environment Cost Evaluator for Parallel Database Systems

Frederic Andres (Centre de Recherche BULL), Michel Couprie (ESIEE), Yann Viemont (Univ. of Paris 6, France)

Set Restrictions for Semantic Groupings

Elke Rundensteiner, Lubomir Bic, Jonathan Gilbert, Meng-Lai Yin (Univ. of California, Irvine, USA)

Session 6: Database Techniques*Real-Time Database Scheduling: Design, Implementation, and Performance Evaluation*

Sang H. Son, Prasad Wagle, Seog Park (Univ. of Virginia, USA)

Design and Implementation of the Multiuser Index-based Data Access System

Pyung-Chul Kim, Hwan-Ik Choi, Yoon-Joon Lee, Myung-Joon Lee (KAIST, Korea)

Improved Overflow Page Handling with Linear Hashing

Seng Fuat Ou, Alan L. Tharp (North Carolina State Univ., USA)

14:00 - 15:30**Session 7: Operations, Integrity, and Concurrent Accesses in Object-Oriented Databases***An Object Behavior Modeling Augmented with Modeling Integrity Constraints*

Hirotaka Sakai (Chuo Univ.)

Expanding the Notion of Operations in an Object-Oriented Database

Jornng-Tzong Horng (National Taiwan Univ.), Baw-Jhiune Liu (National Central Univ., Taiwan)

Controlling Concurrent Accesses in an Object-Oriented Environment

Carmelo Malta, Jose Martinez (Univ. des Science et Techniques du Languedoc, France)

†: short presentation

Session 8: Deductive Databases

The Aditi Deductive Database System (Extended Abstract)

Kotagiri Ramamohanarao (The Univ. of Melbourne, Australia)

Evaluation of Extended Recursive Queries in Deductive Databases

Sang Ho Lee (ETRI, Korea), Lawrence J. Henschen (Northwestern Univ., USA)

LOLA-A Logic Language for Deductive Databases

Burkhard Freitag (Technische Univ. Munchen, Germany)

Session 9: Database Machines

Massively Parallel Relational Database Processing on the Connection Machine CM-2

Kazuhiko Matsumoto, Masaru Kitsuregawa (The Univ. of Tokyo)

Realization of Continuously Backed up RAMs for High-speed Database Recovery

Yahiko Kambayashi (Kyoto Univ.), Hiroki Takakura (Kyushu Univ.)

Acceleration of Join Operations by a Relational Database Processor, RINDA†

Tetsuji Satoh, Hideaki Takeda, Ushio Inoue, Hideki Fukuoka (NTT)

16:00 - 17:30

Session 10: Indefiniteness and View for Object-Oriented Databases

Indefinite Information with Certainty Factors for Object-Oriented Databases

Haechull Lim (Hong-ik Univ., Korea)

A View Environment to Reuse Class Hierarchies in an Object-Oriented Database Systems

Masatoshi Arikawa (Kyushu Univ.)

A View Class Mechanism for Object-Oriented Database Systems†

Yutaka Kimura, Kunitoshi Tsuruoka (NEC)

Session 11: CAD Databases

A Data Model for Design Objects

Muruganandan Kumar, Johnny Wong (Iowa State Univ., USA)

Clustering of Composite Objects for CAD Databases

Hyun Syug Kang (Chonbuk National Univ.), Chi Su Wu (Seoul National Univ., Korea)

Papyrus: A Structured History Database for VLSI Design Flow Management

Tzi-cker Chiueh, Randy H. Katz (Univ. of California, Berkeley, USA)

Session 12: Industrial Implementations (I)

Reflective Viewing and Interactive Synchronization in Hypermedia Editing†

Kazuo Kajimoto, Tomoyuki Nonomura (Matsushita Electric)

Hypertext: An Object-Oriented Model and its Implementation †

Danny B. Lange (Bruel & Kjaer Industri A/S, Technical Univ. of Denmark, Denmark)

Object-Oriented Multimedia Annotation for Large-Scale Mapping System†

Shigeru Shimada, Nobuyuki Chikada (Hitachi)

April 4 (Thursday)

9:00 - 10:30

Session 13: Knowledge Base System

MOOD: A Knowledgebase System with Objectoriented Deduction

Rudolf Bayer (Technical University Munich, Bavarian Research Center for Knowledgebased Systems, Germany)

ACTROB: An Active Robotic Knowledge Base

Ralph Meyfarth (Technical Univ. Munchen, Germany)

TANGUY: Integrating Database, Rule-based and Object-Oriented Paradigms

B. Czejdo, Ch. Eick, M. Taylor (Univ. of Houston, USA)

Session 14: Query Processing

AUTO-QUIZ: An Automatic ACCESS Statement Generator for QUIZ Query

K. P. Tan, T. C. Tan (National Univ. of Singapore, Singapore)

Syntactic Query Processing: Dealing with Structure and Time

A. Illaramendi (Basque Country Univ., Spain), L. Sbattella (Politecnico di Milano, Italy)

Optimization of Queries Including ADT Functions

Kenichi Yajima, Hiroyuki Kitagawa, Kazunori Yamaguchi, Nobuo Ohbo, Yuzuru Fujiwara (Univ. of Tsukuba)

Session 15: Industrial Implementations (II)

-MegaLog- A Platform for Developing Knowledge Base Management System†

Jorge B. Bocca (European Computer-Industry Research Center, Germany)

The Implementation of DBMS for the Specific Field†

M. Nakano, T. Hiraishi, M. Kobayashi, T. Konagaya, T. Mikata (PFU & Fujitsu)

ATENA: A Distributed Name Guide Server in Electronic Mail System†

Lin Yang, Yoshihiko Ebihara (Univ. of Tsukuba)

†: short presentation

11:00 - 12:30**Session 16: Relationship, Logic, and Object-Orientation***The Object-Oriented Relationship System for Managing Complex Relationships*

Soochan Hwang, Sukho Lee (Seoul National Univ., Korea)

An Entity-Relationship Enhanced Logic System

Hock-Chuan Chan (National Univ. of Singapore, Singapore)

The LAURE Model for Object-Oriented Logic Databases

Yves Caseau (Bellcore, USA)

Session 17: Database Applications*Application of Object-Oriented Databases to Publishing Systems*

N. Kuwano, T. Kanda, Y. Mouri, Y. Izumida, R. Sato, O. Yamada (Fujitsu)

DAVID Universal Books Management System

Steve Szu-Yu Hu (Science Applications Research), Shou-Hsuan Stephen Huang (Univ. of Houston), Barry E. Jacobs (Goddard Space Flight Center, USA)

Office Work Coordination Using a Distributed Database System†

B. Karbe (IABG), N.Ramsperger, P. Vogel (Technischen Univ. Munchen, Germany)

Designing Natural Language Objects†

Koichi Takeda (IBM Japan)

Session 18: File Structures and Index*The Multilevel Grid File - A Dynamic Hierarchical Multidimensional File Structure*

Kyu-Yong Whang (KAIST, Korea), Ravi Krishnamurthy (Hewlett-Packard Labs., USA)

A New Grid Version Storage Technique

Sam Y. Sung (Memphis State Univ.), Tok Wang Ling (National Univ. of Singapore, Singapore)

A Superimposed Codeword Indexing Scheme for Handling Sets in Prolog Databases

Kam-Fai Wong (ECRC GmbH, Germany)

14:00 - 15:30**Session 19: Models and Techniques for Multimedia Databases***INTERVISION: A New Hypermedia System Focusing on Dynamic Media*

Hidetoshi Ikeda, Fumio Kitagawa (Hiroshima Univ.), Masaki Nakamura, Kenzo Uchiyama (Tokyo Electric Power Co.)

A HyperNet Model for Large Hypertext Systems

Yi Deng, Shi-Kuo Chang (Univ. of Pittsburgh, USA)

Performance Evaluation of Automatic Name Placement Functions for Geographical Database Systems

Nobuhiko Kojiro, Ken'ichi Miura (Kyushu Univ.), Hiroshi Imai (The Univ. of Tokyo), Yahiko Kambayashi (Kyoto Univ.)

Session 20: Techniques for Text Databases*Automatic Transformation of Linear text into Hypertext*

F Sarre, U. Guntzer (Technischen Univ. Munchen, Germany)

Retrieval Filters for Browsing and Searching a Database of Hierarchically Structured Text

Forbes J. Burkowski (Univ. of Waterloo, Canada)

A Heuristic Method for Document Rankin

Wai Yee Peter Wong, Dik Lun Lee (Ohio State Univ., USA)

Session 21: Cooperation and Database Systems*Cooperative Transaction Model for Multiple Correctness Levels*

Haiyan Xu (Fukuoka Institute of Technology)

A Framework for Version-based Cooperation Control

Wolfgang Kafer (Univ. Kaiserslautern, Germany)

An Open Data Management Architecture for Groupware Applications

Katsumi Kanasaki (Ricoh), Toshiyasu L. Kunii (The Univ. of Tokyo)

16:00 - 17:30**Panel Discussion**Title: *Advanced Applications and Future Research Issues of OODB*

Chairperson: Katsumi Tanaka (Kobe Univ.)

Panelists (candidates):

- Mary E. Loomis (Versant Object Technology)
- Sophie Gamerman (Altair)
- Harry Weeks (Servio Corporation)
- D. Mark Fourman (Ontologic Inc.)
- Kunitoshi Tsuruoka (NEC Corporation)

†: short presentation

第2回高度応用のためのデータベースシステムに関する国際シンポジウム DASFAA'91



1991年4月2~4日 工学院大学 (東京都新宿区西新宿)

参加申込書 (日本在住者用)

表記シンポジウムに参加ご希望のかたは、必要事項を記載の上、シンポジウム事務局までお送りください。

シンポジウム事務局:

〒305 茨城県つくば市春日1-2
図書館情報大学 増永良文 気付 DASFAA'91事務局
電話: 0298-52-0511 内線340 Fax.: 0298-52-4326
E-mail: masunaga@ulis.ac.jp

肩書き: Prof. / Dr. / Mr. / Ms.

氏名: _____ (ローマ字): _____

所属: _____

所属 (ローマ字): _____

住所: _____

住所 (ローマ字): _____

電話: _____ Fax.: _____

E-mail: _____

パンケットへの同伴者: _____ / _____

登録料, チュートリアル料, パンケット料

| 項目 | | 1991年2月17日まで | 1991年2月18日以降 | 人数 | 小計 |
|---------|------|----------------------------------|----------------------------------|----|----|
| 登録 | メンバ* | <input type="checkbox"/> ¥30,000 | <input type="checkbox"/> ¥36,000 | 1 | |
| | 非メンバ | <input type="checkbox"/> ¥39,000 | <input type="checkbox"/> ¥46,000 | 1 | |
| | 学生 | <input type="checkbox"/> ¥5,000 | <input type="checkbox"/> ¥6,000 | 1 | |
| チュートリアル | メンバ* | <input type="checkbox"/> ¥10,000 | <input type="checkbox"/> ¥12,000 | 1 | |
| | 非メンバ | <input type="checkbox"/> ¥13,000 | <input type="checkbox"/> ¥15,000 | 1 | |
| | 学生 | <input type="checkbox"/> ¥2,000 | <input type="checkbox"/> ¥2,400 | 1 | |
| パンケット | | <input type="checkbox"/> ¥10,000 | <input type="checkbox"/> ¥12,000 | | |
| | | | | 合計 | ¥ |

*IPSJ, KISS, SCS, IEEE, ACMのメンバ
なお、Proceedingsは登録者全員に配付されます。

支払

合計金額¥ _____ を _____ 銀行から

に _____ 年 _____ 月 _____ 日に振り込みました。

三和銀行新宿新都心支店
住所: 東京都新宿区西新宿1-6-1
口座番号: 3639170
口座名: DASFAA財務委員長, 石井義興

注意

- 振込用紙に、お名前と共に「DASFAA'91」を明記して下さい。
- 振込用紙の控又はそのコピーを本申込書に貼付して下さい。

_____ 年 _____ 月 _____ 日 署名 _____

事務局用

| | |
|------|--|
| 日時 | |
| 登録番号 | |

第1回マルチデータベースシステム相互運用に関する国際ワークショップ (First International Workshop on Interoperability in Multidatabase Systems)

1月号の本欄でお知らせしました通り、IEEEと情報処理学会主催による標記ワークショップを下記の要領で開催いたしますので多数の方のご参加をお願い致します。

日時 平成3年4月7日～9日
 場所 京大会館(京都市左京区)
 参加申込 本誌1月号本欄参照のこと
 問い合わせ先 〒600 京都市下京区中堂寺南町17 (財)京都高度技術研究所(ASTEM) 坂間千秋
 Tel:075-315-8651 Fax:075-315-2899 E-mail:sakama@astem.or.jp

スケジュール

| | 4月7日(日) | 4月8日(月) | 4月9日(火) |
|--------------------------------|--------------------------|---|--------------------------------|
| 9:00 - 10:45 | | オープニング
招待講演 | 4a 質問処理
4b データモデル |
| 11:00 - 12:30 | | 1a システム統合
1b 知識ベースシステム | 5a システム総合技術
5b データベース意味論 |
| 13:30 - 15:00 | | 2a オブジェクト指向的手法
2b 統合のための
知識ベース的手法 | 6a トランザクション処理
6b データの同一性、識別 |
| 15:15 - 16:45
(3b, - 16:55) | 会場周辺散策
(京大会館15:30発) | 3a データベース言語
3b 意味的異種混合性 | 7a 応用
7b 信頼性と保守 |
| 17:00 - | 参加登録
レセプション
(京大会館) | ディナーツアー
(京大会館 17:15発) | クロージングパネル |

(a: room 101, b: room 210)

プログラム (タイトルに*の付いたものはショートペーパー)

*** 1a. System Integration ***

Sandra Heiler and Michael Siegel: **Heterogeneous Information Systems: Understanding Integration**
 E. Bertino: **Integration of Heterogeneous Data Repositories by Using Object-Oriented Views**
 B. Czejdo and M.C. Taylor: **Integration of Database Systems Using an Object-Oriented Approach**

*** 1b. Knowledge-Based Systems ***

Patrick O. Bobbie and Joseph E. Urban: **A Method for Integrating Heterogeneous Knowledge-Bases**
 Masahiko Tsukamoto, Shojiro Nishio, Mitsuhiro Fujio and Masayuki Miyamoto: **Query Processing for a Knowledge-Base Using DOT Algebra**
 Mitsuhide Shima, Koji Wakimoto, Jun'ichi Shibayama, Satoshi Tanaka and Akira Maeda: **Knowledge-Based Multimedia Information Retrieval Applied to Plant Diagrams**

*** 2a. Object-Oriented Approach ***

Qing Li and Dennis McLeod: **An Object-Oriented Approach to Federated Databases**
 M. Castellanos and F. Salto: **Semantic Enrichment of Database Schemas: An Object Oriented Approach**
 Isao Kojima, Hitoshi Tanuma, Yutaka Sato, Ichirou Ebihara and Yoshihisa Mano: **Implementation of an Object-Oriented Query Language System with Remote Procedure Call Interface**

*** 2b. Knowledge-Based Approach for Integration ***

Son Dao, David M. Keirse, Ron Williamson, Seth Goldman and Charles P. Dolan: **Smart Data Dictionary: A Knowledge Object-Oriented Approach for Interoperability of Heterogeneous Information Management Systems***
 W.K. Whang and S.B. Navathe: **Logic Based Approach for Realizing a Federated Information System**
 Claus H. Pedersen, Jurgen Annevelink, Harry Barman, Nigel Derret, Andy Seaborne, Mark Syrret and Peter Toft: **Data and Knowledge Bases as Integral Parts of a Distributed Object Infrastructure**
 Helmut Schmidt, and Nikolaus Steger: **De.clare - A Deductive Database System with Heterogeneous Access to Relational Database Systems***

*** 3a. Database Languages ***

Eva Kuehn and Ahmed K. Elmagarmid: **Transaction Specification in Multidatabase Systems Based on Parallel Logic Programming**
 John Grant, Witold Litwin, Nick Roussopoulos and Timos Sellis: **An Algebra and Calculus for Relational Multidatabase Systems**
 Roberto Zicari, Stefano Ceri and Letizia Tanca: **Interoperability between a Rule-based Database Language and an Object-Oriented Database Language**

*** 3b. Semantic Heterogeneity ***

- Dennis McLeod: **The Identification and Resolution of Semantic Heterogeneity in Multidatabase Systems**
Ravi Krishnamurthy and Witold Litwin: **Interoperability of Heterogeneous Databases with Schematic Discrepancies**
Doyle Weishar and Larry Kerschberg: **An Intelligent Heterogeneous Database Architecture for Semantic Heterogeneity Support***
Susan D. Urban: **A Semantic Framework for Heterogeneous Database Environments**

***** 4a. Query Processing *****

- Abbas Raffi, Rafi Ahmed, Phillippe DeSmedt, Bill Kent, Mohammad Ketabchi, Witold Litwin and Ming-Chien Shan: **Multidatabase Management in Pegasus**
Peter Harris and David Reiner: **The Lotus DataLens Approach to Heterogeneous Database Connectivity**
Toshikazu Kato, Takio Kurita, Hiroyuki Shimogaki, Tetsuya Mizutori and Koreaki Fujimura: **Cognitive View Mechanism for Multimedia Database System**
Kequn Zhao and Athman Bouguettaya: **Incremental Specification of Complex Resources Across Databases***

***** 4b. Data Models *****

- James Geller, Yehoshua Perl and Erich Neuhold: **Structural Schema Integration in Heterogeneous Multi-Database Systems Using the Dual Model***
Lucian Russell: **Improving Interoperability Using a Three Data-Model Approach***
David Hsiao and Magdi N. Kamel: **The Multimodel, Multilingual Approach to Interoperability of Multidatabase Systems***
Sudha Ram and Edward Barkmeyer: **A Unifying Semantic Model for Accessing Multiple Heterogeneous Databases in a Manufacturing Environment***
Athman Bouguettaya and Kequn Zhao: **FINDIT: A Server Based Approach to Finding Information in Large Scale Heterogeneous Databases***
Wolfgang Benn: **KBMS Support for Multiple Paradigm Applications***

***** 5a. System Integration Techniques *****

- Manuel Garcia-Solaco and Felix Saltor: **Discriminated Operations for Interoperable Databases***
D. Agrawal and A. El Abbadi: **Using Data Migration for Heterogeneous Databases***
S. Misbah Deen: **Inter-Object Operations in Cooperating Knowledge Based Systems**
S. Misbah Deen and Makoto Takizawa: **Interoperability in Distributed Information Systems***
Shinichi Konomi and Tetsuya Furukawa: **Updating Duplicate Values in Distributed Multidatabase Systems***

***** 5b. Database Semantics *****

- Hector Garcia-Molina: **Global Consistency Constraints Considered Harmful for Heterogeneous Database Systems**
Clement Yu and Wei Sun: **Determining Relationships Among Attributes for Interoperability of Multi-Database Systems**
Ashoka Savasere, Amit Sheth, Sunit Gala, Shamkant Navathe and Howard Marcus: **On Applying Classification to Schema Integration***
W. Chu, Q. Chen and R. Lee: **Deriving Intensional and Approximate Answers in a Cooperative Database Environment***

***** 6a. Transaction Processing *****

- Witold Litwin and Ming-Chien Shan: **Value Dates for Concurrency Control and Transaction Management in Interoperable Systems**
W. Perrizo: **Transaction Management in HYDRO: A Multidatabase System***
Hans-J. Schek, Gerhard Weikum and Werner Schaad: **A Multi-Level Transaction Approach to Federated DBMS Transaction Management**
E. Jane Cameron, Linda A. Ness and Amit P. Sheth: **A Universal Executor for Flexible Transactions which Achieves Maximal Parallelism***

***** 6b. Identification *****

- Victor M. Markowitz: **An Architecture for Identifying Objects in Multidatabases**
Erich J. Neuhold, William Kent and Ming Shan: **Object Identification in Interoperable Database Systems***
M.W. Bright and A.R. Hurson: **Linguistic Support for Semantic Identification and Interpretation in Multidatabases**
Calton Pu: **Key Equivalence in Heterogeneous Databases***

***** 7a. Application *****

- Kotaro Katsuyama, Tetsuo Nakakawaji, Naoto Miyauchi and Tadanori Mizuno: **An Implementation of Management Information Base***
Hiroyuki Shimizu, Yasushi Kiyoki, Akifumi Sekishima and Noriyuki Kamibayashi: **A Primitive Function Set of a Decision Making Support System for Selecting Appropriate Online Databases**
Satoshi Ichimura, Norihiko Matsuura, Shin-ichi Hiraiwa, Ken-ichi Okada and Yutaka Matsushita: **A Teamware Workbench for Information Management and Associative Retrieval in the Distributed Environment***
Hans J. Schek, Peter Scheuermann and Andreas Wolf: **From Extensibility to Interoperability between Database Systems and Application Systems***
T.D. Meijler, H.W. Kuil, E.S. Gelsema and M.L. Kersten: **Bridging the Boundaries between Applications: Providing Interactive Interoperability for the End-User***

***** 7b. Reliability and Security*****

- Ken Barker and M. Tamer Ozsu: **Reliable Transaction Execution in Multidatabase Systems***
Dimitrios Georgakopoulos: **Multidatabase Recoverability and Recover**
Rafael Alonso and Ayellet Tal: **Dealing with Failures in Heterogeneous Databases***
Hongjun Lu and Beng-Chin Ooi: **Multilevel Security Control in Multidatabase Systems**

IFIP TC 5/WG 5.10 Working Conference on Modeling in Computer Graphics

開催について

表記国際会議を本年4月東京において開催いたします。皆さま奮ってご参加ください。

- 主催** IFIP TC 5
東京大学理学部情報科学科
- 協賛** 情報処理学会
電子情報通信学会
- 会期** 1991年4月8日(月)より12日(金)
- 会場** 東京大学山上会館(東京都文京区本郷 7-3-1)

プログラム概要(予定)

招待論文(3編: スイス1編, フランス1編, ドイツ1編)
 投稿論文(21編: 日本8編, イタリア3編, 中国・フランス各2編, アメリカ・オランダ・シンガポール・スイス・ドイツ・メキシコ各1編)
 パネル・ディスカッション

- 参加費** 1991年3月31日まで35,000円, 4月1日以降は40,000円
 参加費には予稿集一冊とレセプション費用が含まれます。

申込・問合せ先

東京大学理学部情報科学科國井研究室 品川嘉久(東京都文京区本郷 7-3-1)
 Tel. 03 (3812) 2111 内 4116, Fax. 03 (3818) 4607, E-mail: kunii @ is.s.u-tokyo.ac.jp

IFIP TC 5/WG 5.10 Working Conference on Modeling in Computer Graphics

参加申込書

申込者 氏名 _____ 氏名の英語表記 _____

連絡先(住所, 会社名, 所属) 〒 _____

Tel. _____

連絡先英語表記 _____

表記国際会議の参加を下記によって申し込みます。

- *参加費 35,000円
 40,000円

*送金方法(金額, 振込年月日を記入)

_____円を____月____日, 下記銀行口座に振り込みます。

第一勧業銀行 本郷支店 普通預金口座 1681909

口座名 IFIP TC-5 Working Conference 代表 國井利泰

(注) 申込書は1枚1人としてください。(この用紙のコピーで可)

会
告

支部だより

北海道支部 情報処理北海道シンポジウム '91—Info-Hokkaido '91

- 日時** 平成3年4月26日(金) 9:00~17:00
会場 北海道大学学術交流会館(札幌市北区北8条西5丁目)
特別講演 13:00~14:30(聴講自由, 聴講無料)
演題 北海道大学医学部附属病院における医療情報システム 入江 五朗(北大)
チュートリアル 9:00~12:00
内容 UNIX ネットワークの管理とプログラミング 三谷 和史(北大)
参加費 情報処理学会会員及び賛助会員 3,000円, 一般 5,000円, 学生(大学院生を含む) 1,500円
参加費は当日会場受付で支払うこと
申込方法 電話又は官製はがきで, 住所, 氏名, 電話番号, 所属学会, 勤務先又は大学名・学科・学年を下記の事務局まで連絡すること。申込みは, 開催日の1週間前まで。定員(30名)になり次第締切り。
一般講演 9:00~12:00, 14:30~17:00(聴講自由, 聴講無料)
講演者 特に制限なし。
講演内容 情報処理に関する最近行った研究及び調査の報告, 新しい企画及び開発の報告, 新製品(ソフトウェア, ハードウェア, システム)の紹介など。
講演時間 形式(1) 15分以内(質疑応答時間を含む), 形式(2) 30分以内(質疑応答時間を含む)
講演形式 OHPの使用のみとする。
講演予稿 オフセット印刷による。公募原稿は所定の原稿用紙を使用すること。講演者には講演論文集を1部進呈する(別刷は取扱わない)。
申込方法 下記の事務局への申出により講演申込書と原稿用紙を交付する。
講演参加費 予稿1頁につき2,000円(但し, 4頁以内とする)。
原稿締切 平成3年3月8日(金) 午後5時必着 下記の事務局へ講演申込書及び原稿に講演参加費を添えて提出すること。
事務局 060 札幌市北区北13条西8丁目 北海道大学工学部情報工学科内 情報処理学会北海道支部
Tel. 011 (716) 2111 (内 6819)

中部支部 講演会

- 日時** 平成3年3月4日(月) 13:30~15:00
会場 NTT データ通信(株)東海支社研修室(名古屋市中区錦 2-17-21 NTT DATA 東銀ビル 3F)
演題 似顔絵師システム PICCASO について 輿水 大和(中京大)
参加費 無料(参加資格は問いません)
問合せ先 NTT データ通信(株)東海支社内 情報処理学会中部支部事務局 Tel. 052 (204) 4571
- 日時** 平成3年3月6日(水) 13:30~15:30
会場 豊橋技術科学大学 語学センター2階 大講義室(豊橋市天伯町字雲雀ヶ丘 1-1)
演題 情報とエントロピー論 堀部 安一(静岡大)
参加費 無料(参加資格は問いません)
問合せ先 情報処理学会中部支部事務局 Tel. 052 (204) 4517
- 日時** 平成3年3月6日(水) 14:00~16:00
会場 信州大学工学部 103 番講義室(長野市若里 500 番地)
演題 マルチメディア情報環境—感性情報処理からのアプローチ— 加藤 俊一(電総研)
参加費 無料(参加資格は問いません)
問合せ先 信州大学工学部 岡本正行 Tel. 0262 (26) 4101

四国支部 講演会

日 時 平成3年3月1日(金) 13:30~15:00

会 場 香川短期大学2階講義室(香川県綾歌郡宇多津町四番町五街区 1784-518)

演 題 ASIC とその CAD 技術—モジュールジェネレーション/シリコンコンパイレーション技術の実際—
岡崎 芳(三菱電機)

参加費 無 料(参加資格は問いません)

問合せ先 詫間電波工業高等専門学校情報工学科 河田 進 Tel. 0875 (83) 3141

本会協賛等の行事案内*

セミナー「CAD データ交換国際規格 STEP-Version 1 の制定に向けて」

平成3年3月6日(水)

東京・コープビル

講習会「ファジィ制御の応用の実際」

平成3年5月9日(木)~10日(金)

東京工業大学

平成3年度工学・工業教育研究講演会

平成3年7月17日(水)

愛知厚生年金会館

第7回 ヒューマン・インタフェース・シンポジウム

平成3年10月23日(水)~25日(金)

京都私学会館

* 詳細は本号会議案内欄参照

平成3年度会費および論文誌・欧文誌購読費の納入について

前号本欄でお知らせしたとおり、平成3年度会費および購読費の納付書(郵便振替用紙)を1月下旬に発送いたしましたので、納入かたよろしくお願ひ申し上げます。(会費、購読費は前年度と同じで据置き。)

会 費 正会員 9,600円 学生会員 4,800円(大学院修士課程まで)

購読費 論文誌 4,500円 欧文誌 3,000円

申すまでもありませんが、会費は前納を建て前としておりますので、3月末までに率先して納入いただきたく存じます。

ただし、2年度購読費滞納の方には、別途各自にその旨連絡いたしました。2月20日までに未納の場合には、3月号から学会誌および購読誌の送付をストップいたしますので、早急にご納入ください。(会費滞納者は9月号から学会誌・購読誌の送付をストップしております。)

また、「論文誌」(月刊)および「欧文誌」(季刊)は有料頒布です。まだ購読されていない会員は本年から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方はその旨振替用紙通信欄にご記入くださるか、本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

(自動振替納入利用の会員へ)

会費および購読費を3月27日に振替えますので、その前に預金残高を確認いただき、振替不足にならぬようにご留意ください。なお、振替金額は3月上旬にご通知いたします。振替えされた場合には預金通帳の摘要欄に「ダイヤモンドファクター」または「コウザフリカエ」と印字されますのでご確認ください。

論文誌、欧文誌の購読のおすすめ

「論文誌」(月刊)および「欧文誌」(季刊)は有料頒布です。まだ購読されていない会員は平成3年度から購読されることをお勧めします。新規購読希望の方はその旨会費納入の振替用紙通信欄にご記入くださるか、本欄添付の購読申込書によりお申込みください。

論文誌および欧文誌のご購読について

論文誌「情報処理学会論文誌」(月刊)および欧文誌“Journal of INFORMATION PROCESSING”(略称 JIP・季刊)は下記のとおり、有料頒布となっております。

新規に購読を希望される会員は下記の申込書(コピーにて可)にて、お申込みください。郵便振替口座番号、取扱銀行、送金先等は学会誌目次欄に記載してあります。

| 年間購読料 | 会 員 | 非 会 員 |
|-------|---------|----------------------|
| 論 文 誌 | 4,500 円 | 7,800 円 |
| 欧 文 誌 | 3,000 円 | 6,000 円 (海外 7,000 円) |

平成 年 月 日

論文誌・欧文誌購読申込書

下記により購読を申込みます。(該当欄を○で囲む) 会員 No. _____

1. 氏 名 _____ 会員 (正, 学生, 賛助) ・非会員

連絡先 (〒 _____)

Tel. _____

送本先 (〒 _____)

注) 会員には学会誌の送付先に送本いたしますので、送本先の記入は不要です。

2. 購読希望誌 (申込月の翌月以降の発行誌から送本します。送本希望欄は特に必要な場合のみ記入)

a. 情報処理学会論文誌 (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

b. 欧文誌 “Journal of INFORMATION PROCESSING” (_____ 巻 _____ 号から送本希望)

3. 送金の方法

¥ _____ 也をつぎによって送金いたします。(送金月日 _____ 月 _____ 日)

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

4. その他 (学会事務局への連絡事項)

「情報処理ハンドブック」の頒布について

面目を一新した新版の「情報処理ハンドブック（B5判 1,620 ページ）」を発行しております。情報処理・情報工学および情報科学の全分野をカバーした我が国で最も権威のあるハンドブックで、関連技術者・研究者・教育者・学生の好伴侶となり、また専門外の読者でも容易に概念がつかめ、更に深く進むための手引きとなります。まだ購入されていない会員は早速に購読されることをお勧めします。

会員には特別価格でお頒けいたしますので、希望者は下記により所定の申込書（コピーにて可）にてお申込みください。なお、目次は次のとおりです。

計算の理論，システム解析の基礎，数値解析，ハードウェア，計算機アーキテクチャ，オペレーティングシステム，データ工学，コンピュータネットワーク，プログラミングの基礎，プログラミング言語の記述と処理系，ソフトウェア工学，人工知能，高水準インタフェース技術，システム論，応用システム，教育，規格と資料。

記

定 価 33,990 円（本体 33,000 円） 送料 900 円

会員特価 28,840 円（本体 28,000 円） 送料 900 円

申 込 先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

情報処理学会「情報処理ハンドブック」係 Tel. 03 (3505) 0505 Fax. 03 (3584) 7925

平成 3 年 月 日

「情報処理ハンドブック」購入申込書

下記により購入を申込みます。（該当欄を○で囲む）

1. 氏 名 _____

連絡先 (〒 _____)

_____ Tel. _____

送本先 (〒 _____)

2. 情報処理ハンドブック (28,840 円, 送料 900 円) _____ 冊

3. 送金の方法

¥ _____ を次の方法で送金します。（送金日 ____ 月 ____ 日）

a. 現金書留 b. 郵便振替 c. 銀行振込 (_____ 銀行宛)

注 1) 銀行振込口座および郵便振替口座は学会誌目次欄に記載してあります。

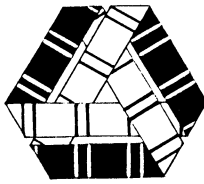
注 2) 請求書類の必要な方はお申出ください。

(No. _____)

請求書 _____ 通, 見積書 _____ 通, 納品書 _____ 通

請求先 _____

会議案内



各会議末のコードは、整理番号です（*：本年既掲載分，**：昨年既掲載分）。会議の詳細を知りたい方は、学会事務局へ切手 72 円を同封のうえ、請求ください。（国内連絡先が記載されている場合は除く。）

1. 開催日, 2. 場所, 3. 連絡, 問合せ先, 4. その他

国際会議

IEEE 第7回 データエンジニアリング国際会議

(**010)

1. 1991年4月8日(月)~12日(金)
2. 神戸国際会議場(兵庫県神戸市中央区)
3. インターグループ内 DE '91事務局
Tel. 03 (3479) 5311

IFIP Workshop on Strategic Floorplanning

(009)

1. 1991年4月29日(月)~30日(火)
2. Garmisch-Partenkirchen, Germany
3. 日本電気(株)半導体事業グループ 柳川 隆之
Tel. 044 (435) 1409

EURO ASIC 91

(010)

1. 1991年5月27日~31日
2. Paris, France
3. 日本電気(株)半導体事業グループ 柳川 隆之
Tel. 044 (435) 1409

ISAGA '91—第22回 国際シミュレーション & ゲーミング学会総会

(**023)

1. 2. 1991年7月15日(月)~16日(火)
国立京都国際会館
- 1991年7月17日(水)~19日(金)
立命館大学
3. 日本シミュレーション & ゲーミング学会国際会議組織委員会 Tel. 03 (3288) 2576
4. 講演申込締切: 1991年3月1日(金)

IEEE 7th Workshop on Multidimensional Signal Processing—第7回多次元信号処理ワークショップ

(011)

1. 1991年9月23日~25日
2. レークプラシッド
3. 主催: IEEE Signal Processing Society
国内連絡先: (株)日立製作所中央研究所 江尻 正員
Tel. 0423 (23) 1111
4. アブストラクト締切: 1991年3月15日

ILPS 91—1991 Int'l. Logic Programming Symposium

(012)

1. 1991年10月28日(月)~31日(木)
2. San Diego, California, USA
3. (財)新世代コンピュータ技術開発機構 研究部
上田 和紀 Fax: 03 (3456) 1618, E-mail: ueda@icot.or.jp
4. 論文締切: 1991年3月15日(金)

IFES '91—国際ファジィ工学シンポジウム (076)**

1. 1991年11月13日(水)~15日(金)
2. 横浜国際平和会議場
3. 日本ファジィ学会 Tel. 045 (212) 8253
4. アブストラクト締切: 1991年5月15日(水)

FGCS '92—第五世代コンピュータ国際会議 1992

(013)

1. 1992年6月1日(月)~5日(金)
2. 東京プリンスホテル
3. (財)新世代コンピュータ技術開発機構 調査国際部
Tel. 03 (3456) 2511

国内会議

세미나「CAD データ交換国際規格 STEP-Version 1 の制定に向けて」

1. 平成3年3月6日(水)
2. コープビル(東京都千代田区内神田)
3. (株)日本コンピュータ・グラフィックス協会
Tel. 03 (3233) 3475
4. 参加費: 15,450円

日本経営情報学会第1回 研究部会合同シンポジウム

1. 平成3年3月9日(土)
2. 青山学院大学総合研究所
3. 産能大学内 日本経営情報学会事務局
Tel. 0463 (92) 2211
4. 参加費: 会員2,000円, 非会員5,000円

第6回 技術放談会「生命現象を計測する」計算機によるアプローチ

1. 1991年3月21日(木)~23日(土)
2. 筑波研究コンソーシアム(つくば市東光台)
3. 筑波研究コンソーシアム Tel. 0298 (47) 8711
4. 参加費: 一般企業40,000円, 国立研究所・大学無料

第4回 ゆらぎ現象研究会

1. 平成3年4月1日(月)
2. 東京工業大学
3. 東京工業大学総合理工学研究科武者研究室内 ゆらぎ現象研究会事務局 Tel. 045 (922) 1111 (内2546, 2568)
4. 参加費: 無料

講習会「ファジィ制御の応用の実際」

1. 1991年5月9日(木)~10日(金)
2. 東京工業大学百年記念館
3. 主催: 日本ファジィ学会
申込み先: 明治大学理工学部情報科学科 向殿 政男
Tel. 044 (911) 8181 (内316)
4. 参加費: 会員30,000円, 学生会員10,000円, 非会員60,000円

平成3年度工学・工業教育研究講演会

1. 平成3年7月17日(水)
2. 愛知厚生年金会館(名古屋市千種区)
3. (社)日本工業教育協会 Tel. 03 (3571) 1720
4. 講演申込締切: 平成3年3月15日(金)

第7回 ヒューマン・インタフェース・シンポジウム

1. 1991年10月23日(水)~25日(金)
2. 京都私学会館(京都市上京区)
3. 主催: 計測自動制御学会
問合せ先: 京都工芸繊維大学工学部電子情報工学科内
第7回ヒューマン・インタフェース・シンポジウム事務局
Tel. 075 (701) 7391
4. 参加費: 15,000円

教官募集



○大学等情報関係教官募集

お茶の水女子大学理学部情報科学科

- 募集人員 助手1名
所属講座 情報処理学
専門分野 計算機アーキテクチャ, システムプログラム, プログラミング全般などに興味のある方
応募資格 修士以上の学位を有し30歳以下
着任時期 平成3年度予算成立後, なるべく早い時期
提出書類 ①履歴書, ②研究業績リスト, あれば主要論文別刷, ③今後の研究・教育に対する抱負(800字程度), ④推薦書2通
応募締切 平成3年3月16日
問合せ先 お茶の水女子大学情報処理センター 佐藤浩史
Tel. 03 (3943) 3151
送付先 112 東京都文京区大塚 2-1-1
お茶の水女子大学理学部情報科学科教授 小山敏子

佐賀大学理工学部

- 募集人員 電子工学科教授1名
専門分野 電子応用工学(博士課程において指導できる方)(博士課程前期, 後期の講義・指導もできる方)
平成3年3月末
応募締切
問合せ先 840 佐賀大学理工学部電子工学科主任 江頭 茂
Tel. 0952 (24) 5191 (内 2658)

福岡工業大学

- 募集人員 教授または助教1名
所属 情報工学科
担当科目 計算機工学(論理回路), 情報通信システム工学(情報理論)
専門分野 情報・通信・電子工学関連分野
応募資格 専門分野のうち特に担当科目に関連ある課題について研究業績があり, 博士の学位を有する方, 教育経験のある55歳以上または35歳以下の方が望ましい。
着任時期 平成4年4月1日
応募締切 平成3年5月31日
提出書類 履歴書, 研究業績リストおよび主要論文の別刷
送付先 福岡工業大学教務課長 石田隆男
811-02 福岡市東区和白東 3-30-1
問合せ先 福岡工業大学情報工学科 教室主任 小野俊彦
Tel. 092 (606) 3131 (内 357)

雑報



○第22回 三菱財団自然科学研究助成候補者募集

重点対象分野

- (1) 実験方法の開発・改良に関する研究
- (2) 工学における境界分野の基礎研究
- (3) 新しい工学的システムとデバイスの基礎研究
- (4)~(10) 省略

なお, すぐれた独創的なものは上記以外の研究でも積極的にとりあげます。

助成の金額と期間

金額 総額約2億2千万円を予定, 1件2千万円以内(本年度は30件程度を目標)。

期間 1年を原則とします。

応募締切日 平成3年4月10日(水)

問合せ先 100 東京都千代田区丸の内 2-5-2 (三菱ビル15階)
(財)三菱財団 Tel. 03 (3214) 5754

情報処理学会への送金口座案内

○会費, 購読費, 叢書代, シンポジウム・講習会参加費等(一般)注)

郵便振替口座 東京 5-83484

銀行振込口座 (いずれも普通預金)

| | |
|---------------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店 | 1013945 |
| 三菱銀行虎ノ門公務部 | 0000608 |
| 住友銀行東京公務部 | 10899 |
| 富士銀行虎ノ門支店 | 993632 |
| 太陽神戸三井銀行東京営業部 | 4298739 |
| 三和銀行東京公務部 | 21439 |

○研究会登録費

郵便振替口座 前記と同じ

銀行振込口座 第一勧銀虎ノ門支店(前記と同じ)

○送金先

社団法人 情報処理学会 Tel. 03 (505) 0505

注) 全国大会参加費, 論文集予約代については, そのつど参加者に特別の振込口座をお知らせします。

平成 2 年度役員

会 長 三浦武雄
 副 会 長 戸田 巖 石田晴久
 先 任 理 事 市川照久 上村 務 上林弥彦
 竹井大輔 千葉常世 苗村憲司
 益田隆司 横井俊夫
 後 任 理 事 伊藤貴康 木村幸男 杉山元伸
 春原 猛 田中穂積 名取 亮
 西 和彦 発田 弘 山本晃司
 監 事 渡部 和 安井敏雄
 支 部 長 津田孝夫 (関西), 伊藤貴康 (東北)
 吉田 将 (九州), 杉江 昇 (中部)
 新保 勝 (北海道), 中田高義 (中国)
 相原恒博 (四国)

(アプリケーション分野)

伊藤 潔 松方 純 秋山義博
 安達 淳 大野徹夫 金子俊一
 川添良幸 斉藤美邦 杉本重雄
 杉山健司 高澤嘉光 高橋成夫
 田中哲男 富井規雄 富安信一郎
 中野 潔 沼尾雅之 橋本 慎
 馬場 健 広瀬 正 星野 寛
 松田茂広 宮崎収兄 宮本義昭
 横矢直和 吉村 猛

文献ニュース小委員会

委 員 長 久世和資
 副 委 員 長 高澤嘉光
 委 員 印藤清志 大森 匡 小川瑞史
 小野寺民也

*地方委員

小原 永 北村啓子 越村三幸
 小林 隆 阪本利昭 白井靖人
 鈴木謙二 垂水浩幸 土田賢省
 鳥谷憲司 長尾 確 野尻 徹
 幅田伸一 藤本久志 本多弘樹
 松本一則 松本一教 森川博之
 矢澤利弘 山口義一 山下義行
 横田治夫 吉田 実 李 相喆
 渡部卓雄 *上原邦昭 *炭田昌人
 *乃万 司

学会誌編集委員会

委 員 長 苗村憲司
 副 委 員 長 春原 猛 発田 弘
 委 員 (基礎・理論分野)
 田中二郎 熊沢逸夫 岩野和生
 上田和紀 宇田川佳久 太田和夫
 篠原 武 篠原靖志 田村直良
 徳永健伸 永井義裕 長尾 確
 西野哲朗 新田克己 野寺 隆
 平川秀樹 古谷立美 堀 浩一
 宮本定明 室田一雄 山本富士男
 渡辺俊典
 (ソフトウェア分野)
 大筆 豊 中川正樹 市吉伸行
 内平直志 岡田康治 落水浩一郎
 小野 諭 川越恭二 上林憲行
 久世和資 坂下善彦 佐渡一広
 田胡和哉 遠山元道 日野克重
 福岡和彦 松田裕幸 山口和紀
 吉田和幸 和田耕一
 (ハードウェア分野)
 馬場敬信 後藤厚宏 天野英晴
 板野肯三 今井正治 笠原博徳
 河井 淳 北沢寛徳 久門耕一
 黒川恭一 斎藤光男 榊 博史
 笹尾 勤 清水茂則 白男川幸郎
 土肥康孝 長井光晴 中田登志之
 仲林 清 原田武之助 藤田昌宏
 山口喜教 山田輝彦 米田友洋

論文誌編集委員会

委 員 長 益田隆司
 副 委 員 長 名取 亮
 委 員 石畑 清 魚田勝臣 浮田輝彦
 大田友一 小池誠彦 小谷善行
 佐藤興二 島津 明 戸川隼人
 徳田雄洋 永田守男 原田紀夫
 松田晃一 三浦孝夫 毛利友治
 吉澤康文

欧文誌編集委員会

前 委 員 長 堂下修司
 委 員 長 上村 務
 副 委 員 長 伊藤貴康
 委 員 浅野正一郎 鶴飼正二 奥乃 博
 *アドバイザー
 喜連川優 紀 一誠 黒須正明
 テクニカル・ライティング
 清水謙多郎 白井英俊 築山俊史
 西関隆夫 浜田穂積 伏見信也
 牧野武則 松村一夫 安村通晃
 山本 彰 米崎直樹

*J. C. バーストン *M. J. マクドナルド

*C. L. コリンズ

(Vol. 32, No. 2)

今月の学会誌をお読みになったご感想・ご意見などを記入して、FAX または郵便にて学会誌編集係あてにお送りください。(記入欄が不足する場合は適宜別紙を追加してください。)

なお、皆さまのご意見をもとに、最も多くの会員の興味を呼び、分かりやすいと評価された記事の著者に「Best Author 賞 (仮称)」を贈呈する予定です。

宛 先: FAX 03 (3584) 7925 (本用紙を含む送信枚数 枚)

住 所 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル

情報処理学会 学会誌編集係 御中

発信者: (ご芳名) _____ (会員番号) _____

(ご所属) _____ (電話番号) _____

1. 本号記事の中であなたが読まれた記事 (多数読まれた場合は特に印象に残った記事), および本号全般についてのあなたの評価をご記入ください。

| 記事の
開始頁
番 号 | 総合
評価
* | 記述が分
かりやす
い * | 内容が
興味深
い * | 自分の研究・
仕事に役に立
つ * | 時機を
得た企
画だ* | その他の感想あるいは
印象に残った理由等
(具体的にお書きください) |
|------------------------|---------------|---------------------|-------------------|-------------------------|-------------------|--|
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| | | | | | | |
| 本 号
全 般
の
評 価 | | | | | | |

*評価は次の5段階でご記入ください。

5. 非常に良い 4. 良い 3. 普通/なんともいえない 2. 悪い 1. 非常に悪い
2. 学会誌の改善についてのご意見やご提案がありましたら自由にお書きください。

「編集室」に掲載することがあります。その場合 実名可, 匿名希望

「情報処理学会 30 年のあゆみ」の発行

情報処理学会創立以来 30 年の諸活動をとおして、わが国の情報処理の学術・技術発展の軌跡と将来の展望を明らかにしています。21 世紀へ向け、情報処理研究者必読の書です。購読をおすすめします。

B5 判、本文 288 頁、定価 3,090 円

目 次

歴代会長（肖像）就任あいさつ

創立 30 周年記念事業

記念全国大会／記念論文／情報処理学会“未来像”の策定／記念出版／記念祝典

創立 30 周年記念国際会議／特別賛助活動／記念事業顧問団／協賛団体

第 1 編 学会 30 年のあゆみ

〔第 1 章〕 30 年の軌跡

1960～1969 年（草創のころ） 高橋 茂

1970～1979 年（中世から近代へ） 穂坂 衛

1980～1989 年（巨大会への道） 大野 豊

〔第 2 章〕 活動のあゆみ

沿革／会員／支部活動／総会／機関誌／調査研究活動／全国大会／国際活動／記念事業／出版活動／表彰
会計／事務局

（思い出） 和田 弘・萩原 宏・大野 豊・森口繁一・坂井利之・尾関雅則・清野 武・山本欣子

第 2 編 規格活動の軌跡

高橋 茂

はじめに／標準化活動の発足／国際的な組織の変遷／国内組織の変遷／標準化活動の概観／特記すべき活動
将来の展望

第 3 編 情報処理技術の発展と展望

| | | | |
|-------------------|------------|---------------------|----------------|
| 1 章 基礎理論 | 野崎昭弘 | 8 章 日本語情報処理 | 長尾 真 |
| 2 章 コンピュータアーキテクチャ | 相磯秀夫 | 9 章 人工知能 | 堂下修司 |
| 3 章 オペレーティングシステム | 高橋延匡 | 10 章 コンピュータグラフィックス | 中前栄八郎 |
| 4 章 プログラム言語 | 和田英一 | 11 章 CAD/CAM | 山田昭彦 |
| 5 章 データベース | 植村俊亮 | 12 章 パーソナルコンピューティング | 石田晴久 |
| 6 章 ネットワーク | 野口正一 | 13 章 応用システム | 福井隆夫 高根宏士 三木彬生 |
| 7 章 ソフトウェア工学 | 落水浩一郎 春原 猛 | | 年表／あとがき／索引 |

申 込 み 方 法

部数に制限がありますので、ご希望の方は次の事項を明確にし、ハガキまたは FAX でお申込みください。

- 頒布価 @ 3,090 円（消費税、送料込み）、送金の別（現金または銀行）
- 送本先（住所、氏名、電話等）
 - a. 現金書留（送金先 106 東京都港区麻布台 2-4-2 保科ビル（社）情報処理学会 30 年のあゆみ係）
 - b. 銀行振込（いずれも普通預金口座）

| | | | |
|------------|---------|---------------|---------|
| 第一勧銀虎ノ門支店 | 1013945 | 富士銀行虎ノ門支店 | 993632 |
| 三菱銀行虎ノ門公務部 | 0000608 | 太陽神戸三井銀行東京営業部 | 4298739 |
| 住友銀行東京公務部 | 10899 | 三和銀行東京公務部 | 21409 |

（名義人）東京都港区麻布台 2-4-2 社団法人 情報処理学会
 - c. 郵便振替口座 東京 5-83484

本誌広告読者アンケートのお願い

会誌「情報処理」をご愛読いただき、ありがとうございます。

さて、この度、当学会では読者の皆様の本誌の広告に対するご要望を取り入れ、今後一層の内容の充実を図るため、読者アンケートを企画いたしました。

なにとぞ、ご協力のほど、お願い申し上げます。

アンケートにご協力いただいた方には、抽選で100名様に学会オリジナルテレホンカードをお送りいたします。なお、当選者の発表は、発送をもってかえさせていただきます。

【記入方法】

アンケートはがき裏面の欄に、以下の質問について、該当する番号を○印で囲み、必要事項をご記入ください。その他、本誌に対する皆様のご意見、ご希望、ご感想や今後取り上げてほしい記事などをお書きください。

「情報処理」読者アンケート

I. あなたの勤務先の業種は

1. コンピュータ・関連メーカー
2. ソフトウェア・情報処理関連サービス
3. 精密機械・電気・電子製造
4. その他製造
5. 流通・サービス
6. 金融
7. 学校・公共機関・官公庁
8. 病院
9. その他

II. あなたの勤務先の職種は

1. 情報システム部門
2. 教育・コンサルティング
3. 研究・開発
4. 設計
5. 製造・生産技術
6. 生産管理
7. 資材・購買
8. 企画・調査・広報・宣伝
9. 経営・管理スタッフ
10. 営業・販売
11. 総務・経理
12. その他

III. あなたの勤務先での役職は

1. 経営者・役員
2. 部長(技術系)
3. 部長(事務系)
4. 課長(技術系)
5. 課長(事務系)
6. 係長・主任(技術系)
7. 係長・主任(事務系)
8. 一般技術職
9. 一般事務職
10. 教員
11. その他

IV. あなたの学歴は

1. 大学院(博士過程)終了
2. 大学院(修士過程)終了
3. 大学卒
4. 短大・高専卒
5. 専門学校卒
6. 高卒卒
7. その他

【裏面に続く】

V. 専攻学科は

1. 情報工学
2. 情報科学
3. 経営情報
4. 電気・電子工学
5. 機械工学
6. その他工学
7. 数学
8. 物理(応用)
9. 化学(応用)
10. その他理学
11. 法学
12. 経営・経済学
13. その他

VI. あなたの年齢

1. 10代
2. 20代
3. 30代
4. 40代
5. 50代
6. 60代～

VII. 勤務先(都道府県)

VIII. あなたの取得情報処理技術者資格は

1. 特種
2. 第1種
3. 第2種
4. システム監査技術者
5. 電気通信主任技術者
6. その他()

IX. あなたの勤務先の従業員数は

1. 1～49人
2. 50～99人
3. 100～199人
4. 200～499人
5. 500～999人
6. 1000～4999人
7. 5000人以上

X. 併読雑誌は

1. 日経コンピュータ
2. 日経バイト
3. 日経パソコン
4. THE COMPUTER
5. ASCII
6. bit
7. インターフェース
8. コンピュータ&ネットワークLAN
9. その他()

A. 「情報処理」の回読人数

1. 自分だけ
2. 自分以外に1人
3. 自分以外に2人
4. 自分以外に3人
5. 自分以外に4人以上

B. 本誌の広告への注目度

1. すべてよく見る
2. 一通り見る
3. 関心のあるものだけ
4. みない

C. 広告の役立て方

1. 製品・サービスの動向を知る
2. 新製品の発表・発売を知る
3. 機能・性能の概要を得る
4. 製品・サービスの購入・検討の情報源
5. 就職情報
6. その他()

D. 本誌に希望する広告は

1. 大・中型コンピュータ
2. ミニコンピュータ
3. オフィスコンピュータ
4. パーソナルコンピュータ
5. EWS
6. データベース
7. アプリケーションソフト
8. その他ソフトウェア()
9. 周辺端末機器
10. 通信機器
11. 半導体
12. 計測機器
13. ソフトウェアハウス
14. 計算センター
15. コンピュータ用品設備

E. 過去1年間にしかけた展示会

()

ご協力ありがとうございました。